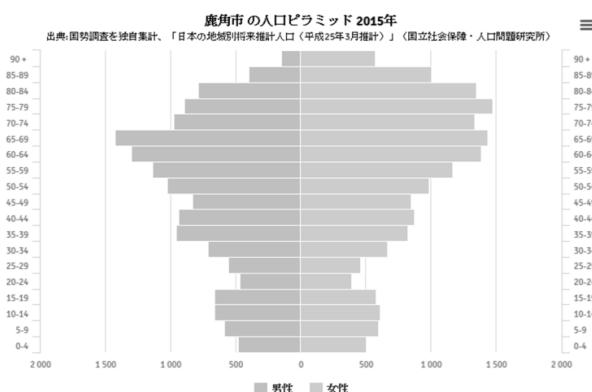


平成28年度

ふるさと教育 かつの学

研究集録



秋田県立十和田高等学校

目 次

ふるさと教育『かづの学』	校 長 石 川 弘 美	
ふるさと教育『かづの学』を終えて	生徒会長 中 村 康 平	
平成28年度 ふるさと教育「かづの学」全体計画		1
講座別生徒一覧		2
各講座の研究		
【伝統・文化】		
1 鹿角の伝説とむがしっこ		4
2 鹿角方言かるた		6
3 地名から見る鹿角の風土		8
4 鹿角の朝市①		10
5 鹿角の朝市②		12
6 鹿角・毛馬内ふるさと情報をホームページで発信しよう①		14
7 鹿角・毛馬内ふるさと情報をホームページで発信しよう②		16
【産業・政策】		
8 鹿角発ブランド農産物の地域展開 －「かづの牛」の生産構造と流通形態－		18
9 地域ブランディングを考える① －花輪ばやし・桃豚－		20
10 地域ブランディングを考える② －かづの牛・鹿角の食MAP・太湯温泉－		22
11 「スキーと駅伝のまち鹿角」について①		24
12 「スキーと駅伝のまち鹿角」について②		26
13 日本ジオパークから考察する鹿角		28
14 統計資料からみる鹿角		30
【資源・エネルギー】		
15 鹿角地域新エネルギービジョンを覗いてみる		32
16 金属を製錬する －鉱石から金属をつくる－		34
【環境・福祉】		
17 鹿角の防災		36
18 鹿角の看護 －脳と体を育てるために、よい睡眠をしよう！－		38
19 鹿角の看護 －脈について知ろう－		40
【クリエイト】		
20 春夏秋冬における鹿角の郷土食の開発		42
21 かづのPRソング制作		44
平成28年度ふるさと教育「かづの学」公開研究発表会		
公開研究発表会スケジュール		46
公開研究発表会の様子（写真）		47
生徒のワークシートから		48

ふるさと教育『かづの学』

校長 石川 弘 美

地域の活性化に貢献できる生徒の育成を目指し、1 ふるさとの素晴らしさの発見、2 ふるさとへの愛着心の醸成、3 ふるさとに生きる意欲の喚起、4 ふるさとについて発信する力の育成を4つの柱として始まったふるさと教育「かづの学」が3年目となりました。今年度は、16のテーマのもと、学年を縦割りとしたグループで調査研究をしてきました。詳細は、集録を御覧ください。集大成として、平成28年12月20日に本校第1体育館でふるさと教育「かづの学」の公開研究発表会を開催しました。発表会では、8つの口頭発表、12のポスター発表、1つの実演を行いました。また、「かづの若者会議」の阿部朗人さんから短時間でしたが講演をしていただきました。

1年間の活動の総まとめと発表会について、生徒たちから「かづの学」についてアンケートを取りました。ごく一部ですが、紹介します。

【今年初めて取り組んだ1年生の感想】

- 鹿角について知らなかった事や興味を持てなかった事に興味を持つことができた。
 - 他の班が様々な工夫をして発表していた。
 - 自分たちで考え提案したものを、他の人に伝える大切さを知ることができた。
 - もう少し踏み込んだ研究ができれば良いと思った。
 - 聞いてもらえるような内容を発表できるようにしたいと思った。
- このことから、1年生は2、3年生の発表から多くのことを学んだことがうかがえます。

【2年間取り組んだ2年生の感想】

- 昨年よりも興味を惹いたものが多かった。
 - 昨年よりもたくさん学べたし、学びたいことが多くあった。
 - 課題を考えながら、取り組むことができた。
 - 発表では、自分たちで工夫しているところが良かった。
 - 自分の発表と他の発表を比べて、学べるものが多かった。
 - 深く追究すると新たな発見があった。
 - 鹿角には何もないのではなく、知らなかっただけだと分かった。
 - 発表の仕方（声の大きさ、文字の大きさ、伝え方）をもっと工夫したい。
 - 来年はもっと深く研究し、鹿角の活性化に貢献したい。
- このことから、2年生は他の班の研究内容や発表をしっかりと分析しながら、次年度への意欲を思わせる感想が多くありました。

【3年間取り組んだ3年生の感想】

- 昨年、一昨年よりも良かった。発表の仕方が工夫されていて興味を持った。鹿角に戻ったら貢献したい。
 - 鹿角は魅力があるのに、伝える力がないのはもったいないと思った。工夫次第で変わると思う。自分たちでできることはやりたい。
 - 地元を知って、好きになることができ充実した研究であった。地域が活性化できるように個人でも頑張りたい。
 - 3年間取り組んで、自分の住んでいる地に誇りに思えることがたくさんあることを知った。社会に出てからも発信したい。
 - 3年間調べたことは良い経験になった。
 - 地元について知ることの大切さを知った。自分の地に自信を持ちたい。
- このことから、3年生は「かづの学」の意義をしっかりと理解し、自分なりにかづの学を通して得たものを発信しようとする気持ちが感じられます。

3年間「かづの学」に取り組んだ3年生の感想から、地域の活性化に貢献できる生徒の育成という目標が少なからず達成できたのではないかと考えます。3年生には、卒業後も「かづの学」で学んだ事、体験した事、考えた事を是非鹿角のために生かしてもらいたいと考えます。3年間の実施の中で、成果もありましたが、課題もたくさん見つかりました。来年度もさらなる充実を目指し、取り組んでいきたいと考えます。

最後になりましたが、本校の取り組みに対して親身に御指導して下さった地域の方々、積極的に支援をして下さったすべての方々に感謝の意を表しますとともに、今後とも御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

ふるさと教育『かづの学』を終えて

生徒会長 中 村 康 平

今年で3年目となる「かづの学」は、自分たちで選択した講座に対して、計画を立て、実際に行動し、鹿角の自然や文化、歴史や現状とこれからを考えていく時間です。

約7か月の期間で、さまざまな資料を活用し学習したり、実際にフィールドワークを行ったりしました。また、その際には地域の方々や関係機関の方に講師として協力してもらいました。その成果は、公開研究発表会で全校生徒、先生方で共有しました。各講座の発表からは、鹿角の抱える課題や、一般的に「若者」とよばれる私たちがこれからどのように考え、行動していくべきかを感じ取ることができました。したがって、今年度のかづの学は、ここで終了となるのではなく、来年度、さらにその先へと繋がる内容になっていたと思います。

現状を理解し、今何が必要なのかを考え行動する。これは、私たちが生きていく上で必ず必要になることだと思います。ふるさと教育「かづの学」を通してこのような経験ができるのは、恵まれた環境といえるでしょう。来年度も、より充実した調査・研究を行っていきけるよう頑張りたいと思います。

平成28年度 ふるさと教育「かづの学」全体計画

秋田県立十和田高等学校 校訓



純

純真謙虚な気持ちで人に接し、
青年としてまた生徒としてふさわしい気品のある態度で行動する。



剛

正しい事である限り、敢然勇氣を以て当たり
何事に対しても不撓不屈の精神を以て努力する。



忍

何事にも辛抱強く、
人に接するに仁を以てし、寛容の心を以て物事を処理する。

学校の教育目標

- 1 心身の鍛練と調和を図り、21世紀をたくましく
生き抜く力の育成に努める。
- 2 全ての教育活動を通して、「純・剛・忍」の生徒
像の涵養を目指す。
- 3 基礎学力を向上させ、積極的に探究する姿勢
を身につけさせる。
- 4 進路目標達成を目指して、情報化・グローバ
ル化社会に対応できる人材を育成する。

キャラクター



テーマ	教科の取り組み
鹿角の人物	・郷土の偉人について調べ、その偉業や作品 について発表する。 ・郷土の方言について調べ、発表する。 ・ふるさとに縁ある五輪選手について学習し、 体育理論を研究する。
鹿角の自然	・自然環境を調査し、生物学的に研究、発表 する。 ・身近な地形の学習を通して、防災に対する 意識を高める。
鹿角の産業	・農・鉱工業などを調査し、発表する。 ・毛馬内・花輪地区商店街を調査し、ホーム ページで紹介する。
鹿角の文化	・郷土の名所、名産、伝統行事などを英語で 表現する。 ・鹿角の衣・食・住・文化・伝統を調査し、発 表する。 ・郷土料理のルーツを探り、調理する。 ・鹿角の特産品を使った商品開発をする。

地域の活性化に 貢献できる 生徒の育成

「ふるさと教育」目標

- 1 ふるさとの素晴らしさの発見
- 2 ふるさとへの愛着心の醸成
- 3 ふるさとに生きる意欲の喚起
- 4 ふるさとについて発信する力
の育成

テーマ	分掌の取り組み
勤労・奉仕・ 共働の精神 の育成	・体験的活動に参加するのにふさわしい 態度及び社会人になるための基礎的 素養を身につける。 ・他者との協力や奉仕の精神、地域社会 の一員としての自覚や、郷土愛を身に つける。 ・儀礼的行事を通し、本校及びふるさとの 伝統や良さを再認識する。
生徒の活動 への支援	・毛馬内盆踊同好会の高文連発表会へ の参加を継続する。 ・生徒が参加する地域行事やボランティ ア活動を年間行事へ位置づける。 ・教科の年間指導計画においてふるさと 教育を位置づける。 ・郷土の歴史や偉人に関する本の紹介を する。

総合的な学習の時間
16の講座を開設し、学年を縦割りとしたグループで調査研究 を実施する。 ＜平成28年度開設講座＞ 【伝統・文化】 1 鹿角の伝説とむがしっこ 2 鹿角方言かるた 3 地名からみる鹿角の風土 4 鹿角の朝市 5 鹿角・毛馬内ふるさと情報をHPで発信しよう 【産業・政策】 6 鹿角発ブランド農産物の地域展開(かづの牛) 7 地域ブランディングを考える 8 「スキーと駅伝のまち鹿角」について 9 日本ジオパークから考察する鹿角 10 鹿角市の統計資料で学ぶ「データの分析」 【資源・エネルギー】 11 鹿角地域新エネルギービジョンを覗いてみる 12 金属を製錬する 【環境・福祉】 13 鹿角の防災 14 鹿角の看護 【クリエイト】 15 春夏秋冬における鹿角の郷土食の開発 16 かづのPRソング制作

各学年の取り組み	
1 学年	・毛馬内盆踊り講習会を実施し、毛馬内盆踊りへ参加する。 ・職場体験学習で、地元の企業を見学する。
2 学年	・修学旅行において、旅行先の文化や風土を学び、鹿角との相違点を見だし、地元の魅力を再確認する。
3 学年	・郷土に関する事物の特徴を再認識し、郷土の文化を発信する。

学校行事
・毛馬内盆踊り講習会を継続実施し、毛馬内盆踊 りへ参加する。 ・高文連郷土芸能・日本音楽合同発表会で披露す る(毛馬内盆踊り)。 ・かづの学の成果を十高祭で公開する。 ・体験入学で、中学生と鹿角についてパネルディ スカッションを行う。

生徒会執行部
・生徒会行事において、ふるさと教育に関する企画・ 運営を行う。 ・学校新聞、生徒会誌、生徒会だより等に郷土の情 報やふるさと教育に関する生徒の活動を掲載し広 報活動を行う。

講座別生徒一覧

1 鹿角の伝説とむがしっこ

年	組	番	氏名
1	A	3	阿 部 七 海
1	A	11	黒 澤 綺 香
1	A	17	高 瀬 恵 美
1	A	20	成 田 未 羽
1	B	15	栗 山 七 星
1	B	16	小板橋 穂乃佳
1	B	21	菅 原 風 歌
1	B	23	関 椎 菜
1	B	25	高 橋 楓 乃
1	C	16	木 村 桃 子
1	C	20	境 雅 史
2	A	9	黒 沢 能 伸
2	C	1	青 山 瑠 芳
3	A	2	阿 部 瑞 穂
3	A	10	黒 澤 舞 虹

2 鹿角方言かるた

年	組	番	氏名
1	A	2	秋 本 侑 菜
1	A	9	木 村 有 里
1	A	14	佐 藤 さくら
1	A	21	萩 原 佑 弥
1	A	26	湯 瀬 祥 日
1	B	11	長 内 星 空
1	C	17	栗 木 絵美奈
1	C	21	佐 藤 雅
2	A	15	関 諒
2	B	4	加 賀 誠
2	B	5	金 澤 英 伍
2	B	31	畠 山 紫 苑
2	B	33	湯 瀬 海 渡
2	C	13	成 田 菜 央
2	C	31	菩提野 大 将
3	A	6	刈 谷 陽 希

3 地名からみる鹿角の風土

年	組	番	氏名
1	A	12	黒 澤 二千翔
1	A	15	澤 口 由 佳
1	C	5	阿 部 佑希也
1	C	12	角 宏 靖
1	C	14	鎌 田 涼 平
1	C	24	田 中 夢 斗
1	C	25	兎 澤 晃 貴
2	A	10	小 舘 未 来
2	A	26	畠 山 香
2	A	28	樋 口 遥 香
2	B	20	阿 部 翔 馬
2	C	2	阿 部 翔 麻
2	C	20	相 川 俊 隆
2	C	22	大 西 結衣香
2	C	24	加 賀 みなみ
2	C	29	成 田 心 美
2	C	32	湯 瀬 夏 希
3	A	1	阿 部 瑛 天

4 鹿角の朝市①

年	組	番	氏名
1	A	13	黒 澤 晴 陽
1	A	18	田 島 舞 菜
1	A	19	成 田 舞 衣
2	A	29	廣 嶋 宙
2	B	12	高 杉 京 香
2	B	19	和 田 夕 奈

5 鹿角の朝市②

年	組	番	氏名
2	A	13	佐 藤 穂 歌
2	A	25	倍 賞 菜々子
2	B	1	相 川 葵
2	B	9	工 藤 夕 佳
2	B	15	根 元 樺 恋
2	B	27	佐々木 琴 望
2	B	32	平 塚 華 奈
2	C	11	成 田 圭 語
2	C	16	本 田 優 美
2	C	17	柳 沢 勝 也
2	C	19	相 川 茜
2	C	30	原 田 瞳
3	B	6	加 賀 千 滉
3	B	29	工 藤 実 穂

6 鹿角・毛馬内ふるさと情報をホームページで発信しよう①

年	組	番	氏名
2	A	1	赤 坂 悠 介
2	A	3	上 田 一 稀
2	A	4	梅 津 航 洋
2	A	7	勝 田 詩 織
2	A	17	高 橋 諒
2	A	32	柳 澤 翔 哉
2	C	3	大 森 夢 月
2	C	14	畑 沢 美佳紗
2	C	18	横 渕 直 斗
2	C	26	児 玉 里 穂
3	B	13	佐 藤 響
3	B	30	黒 澤 諒 介
3	B	32	高 橋 棕 一

7 鹿角・毛馬内ふるさと情報をホームページで発信しよう②

年	組	番	氏名
1	B	13	金 子 瑠 亜
1	B	22	菅 原 桃 音
1	B	28	殿 村 志 恩
1	C	3	秋 本 綾 華
1	C	6	安 保 甫
1	C	9	大 森 敬 太
1	C	26	兎 澤 柊 人
1	C	27	兎 澤 珠 利
1	C	29	橋 野 亜里沙
1	C	30	晴 澤 未唯奈
1	C	31	藤 田 希 望
2	B	3	一 戸 柊 弥
2	B	14	成 田 裕 也
2	B	29	佐 藤 翔
2	C	18	横 渕 直 斗

8 鹿角発ブランド農産物の地域展開（かづの牛）

年	組	番	氏名
2	B	2	阿 部 太 喜
2	B	11	清 野 流 雅
2	B	13	中 村 凌 輔
2	B	16	村 木 義 胤
2	B	18	米 沢 賢 也
2	B	23	木 村 康 生
2	C	9	兎 澤 健 佑
2	C	10	成 田 兼 浩
3	B	3	安 保 里 美
3	B	27	石 川 聖
3	B	28	工 藤 和 輝
3	B	35	成 田 将
3	B	36	橋 野 柊 太
3	C	10	木 村 千里香
3	C	19	美濃山 涼 雅
3	C	26	菊 池 慧 士
3	C	27	黒 澤 陸 都
3	C	29	坂 庭 隆 真
3	C	32	田 中 拓 哉
3	C	34	山 本 瑛 久

9 地域ブランディングを考える①

年	組	番	氏名
1	B	20	佐 藤 萌
1	B	27	兎 澤 菜 摘
1	B	33	柳 沢 芽 依
1	C	15	木 村 梓央李
2	A	20	中 村 康 平
2	C	7	桜 庭 圭
2	C	21	浦 川 岳 斗
2	C	25	金 澤 綾 太
3	C	8	小笠原 智 紀
3	C	24	渡 辺 瑠 那
3	C	25	池 田 佳奈子
3	C	30	柴 田 瑠 威

10 地域ブランディングを考える②

年	組	番	氏名
2	A	11	佐々木 卓 人
2	A	18	戸 川 颯 斗
2	B	26	櫻 田 瑠 衣
2	B	28	佐 藤 夏 絵
3	B	1	青 山 瑞 嬉
3	B	14	四 戸 芹 奈

11 「スキーと駅伝のまち鹿角」について①

年	組	番	氏名
1	B	1	阿 部 達 也
1	B	3	阿 部 祐 也
1	B	14	刈 谷 友 樹
1	B	26	田 畑 知 紘
1	B	31	菩提野 勇 人
2	C	8	田 畑 海 斗

12 「スキーと駅伝のまち鹿角」について②

年	組	番	氏名
2	C	5	小 舘 一 輝
2	C	28	蛇 沼 穂乃香
3	A	24	目 時 実 夢
3	B	5	大 森 恵
3	B	22	柳 沢 実 穂
3	B	31	佐 藤 彩 乃
3	B	33	田 原 朱 莉
3	C	9	勝 田 千 尋

13 日本ジオパークから考察する鹿角

年	組	番	氏名
3	B	10	菊 池 竜太郎
3	B	11	栗 山 大 輝
3	B	15	渋 谷 卓 句
3	B	16	竹 田 天 斗
3	B	21	古 家 拓 朗
3	B	26	安 保 祥 太
3	B	34	奈 良 彩 斗
3	C	4	安 保 裕 太
3	C	5	石 井 貴 太
3	C	6	大 村 一 輝
3	C	11	昆 裕 次
3	C	17	奈 良 潤 人
3	C	18	畠 山 新
3	C	20	桃 木 隼 介
3	C	28	小 林 大 地
3	C	31	高 嶋 優 河

14 統計資料からみる鹿角

年	組	番	氏名
1	A	1	赤 坂 翔
1	A	5	大 森 将 来
1	A	6	加 賀 翔 輝
1	A	25	村 木 達 巳
1	A	27	湯 瀬 文 椰
1	B	18	佐 藤 奏
1	C	1	相 川 晟 司
1	C	2	青 山 佳
1	C	22	高 田 丈 寛
1	C	34	湯 瀬 颯 人
2	B	6	亀 田 要
3	A	12	佐々木 陽
3	A	23	曲 田 貴 大
3	A	27	湯 沢 瑞 樹
3	A	28	吉 原 詩 織
3	C	13	関 彩 美
3	C	16	中 条 いづみ

15 鹿角地域新エネルギービジョンを覗いてみる

年	組	番	氏名
1	A	22	福 島 勝 太
1	B	12	小田島 雄 大
1	B	30	畠 山 優 斗
1	C	8	大 里 彩
1	C	10	小田嶋 直 人
1	C	23	高 田 悠 平
2	A	23	成 田 大 地
2	B	8	工 藤 悠 人
2	B	30	長 田 周 悟
2	C	4	亀 田 強
2	C	6	小 林 和 也
2	C	23	小笠原 壮 汰
3	A	5	亀 田 涼 太
3	A	16	田 口 亮
3	B	17	舘 花 梓
3	B	20	畠 山 萌

16 金属を製錬する

年	組	番	氏名
1	B	17	小 沼 陽 和
1	C	32	美濃山 敦 貴
2	A	8	木 村 漠
2	A	16	高 杉 佑 子
2	A	31	望 月 咲 良
2	B	17	柳 沢 優 太
2	B	24	熊 谷 友 花
2	B	25	齋 藤 幸 香
2	C	15	坊 川 玲 穂
3	A	13	佐 藤 貴 広
3	A	17	豊 田 浩 貴
3	A	25	湯 沢 泰 羅
3	B	18	田 中 来 樹
3	B	24	米 澤 翔
3	C	23	湯 瀬 菖 花

17 鹿角の防災

年	組	番	氏名
1	A	7	桂 田 大
1	A	8	川 村 大 翔
1	A	16	渋 谷 優 利
1	B	2	阿 部 瑞 樹
1	B	4	安 保 友 貴
1	B	6	石 川 大 人
1	B	7	大 越 広 空
1	B	8	大 村 龍之介
1	B	9	大 森 統 吾
1	B	10	大 森 怜
1	B	24	高 橋 彩 斗
1	B	32	安 永 暖
1	C	4	阿 部 悠 輔
1	C	7	石 川 闘 夢
1	C	11	嵩 智 貴
1	C	28	成 田 綸
1	C	33	柳 沢 珠梨那
3	B	12	齊 藤 梨 奈
3	C	7	大 森 里葉奈
3	C	12	四 戸 春 菜

18 鹿角の看護（睡眠）

年	組	番	氏名
2	A	12	佐 藤 聖 剛
2	A	14	関 真那加
2	A	21	中 村 友香里
2	A	22	成 田 沙 瑛
2	A	24	成 田 莉 奈
2	A	27	花 田 遥 香
2	A	33	湯 瀬 綾 太
3	A	4	石 垣 知亜美
3	A	9	黒 沢 瑛 美
3	A	11	佐々木 快 人
3	A	19	成 田 直 哉
3	B	7	金 澤 志 歩
3	C	22	山 内 敢 太

19 鹿角の看護（脈）

年	組	番	氏名
1	A	23	藤 嶋 梨衣那
1	A	24	藤 田 咲 良
1	B	29	奈 良 七 海
1	B	34	吉 田 雅
3	A	7	工 藤 愛 生
3	A	8	工 藤 環 奈
3	A	18	成 田 生 絵
3	A	20	袴 田 胤
3	A	21	畠 山 彬
3	A	26	湯 沢 直 生

20 春夏秋冬における鹿角の郷土食の開発

年	組	番	氏名
2	A	19	豊 下 茉 耶
2	B	10	沢 田 美 帆
2	B	21	安 保 智 愛
2	B	22	安 保 楓 華
3	A	3	安 保 満利名
3	A	14	沢 田 佳奈美
3	A	22	藤 田 珠 々
3	B	2	阿 部 玲 奈
3	B	8	兜 森 美 歩
3	B	23	柳 田 純 香
3	C	1	青 山 芹 奈
3	C	2	浅 利 舞 華
3	C	3	安 保 仁 茜
3	C	15	豊 田 由 唯
3	C	21	柳 沢 千 尋
3	C	33	馬 淵 季沙羅

21 かづのP Rソング制作

年	組	番	氏名
1	B	5	石 川 皓 也
1	C	13	兜 森 歩 海
1	C	18	黒 沢 綾 香
1	C	19	齊 藤 悠 菜
2	A	2	赤 坂 悠 名
2	A	5	榎 並 将太郎
2	A	6	大 森 のどか
2	A	30	村 木 里 帆
3	A	15	高 瀬 由梨佳
3	B	4	石 川 朱 里
3	B	9	川 端 桃 花
3	B	19	豊 田 駿 也
3	B	25	秋 本 翔 真
3	C	14	高 月 理 奈

代表者 3A 阿部 瑞穂

指導者 吉岡 藤美

I テーマ設定の理由

「伝説の里・鹿角」と言われるように、鹿角地区には民話や伝説がたくさんある。近年、「北限の桃」や「かづの牛」、花輪ばやしの世界遺産登録など、さまざまな面で注目されている鹿角であるが、民話や伝説の宝庫であることも魅力の一つだと思う。

そこで、私たちは、ふるさと鹿角に伝わる伝説や昔話を紙芝居にして施設や保育園で上演したり、伝説の舞台となった場所がひと目でわかるような地図を作成したりすることで、より多くの人達に鹿角のよさを知ってもらいたいと思い、このテーマを設定した。

II 実施計画

1 伝説マップ作成班と紙芝居班に分かれ、それぞれのところで取り組む。

<伝説マップ作成班>

- (1) 鹿角地区（鹿角市、小坂町）にどのような伝説があるか、インターネットで調べる。
- (2) 調べた伝説の舞台となった場所を調べる。
- (3) 実際にその舞台となった場所に行き、写真を撮影する。
- (4) 鹿角の伝説マップを作成する。

<紙芝居班>

- (1) 紙芝居にする伝説・昔話を選ぶ。
- (2) 参考文献を決め、紙芝居を製作する。
- (3) 施設や保育園を訪問し、紙芝居を通じて交流をする。

※なお、施設訪問、保育園訪問の際は全員が参加するものとする。

2 市内の施設や保育園で紙芝居の上演をし、交流を図る。

3 研究発表会に向けてのまとめをする。

III 調査・研究内容

1 採用する伝説・昔話の検討

まず、学校の図書館にある『陸中の国鹿角のむかしっこ』『陸中の国鹿角の伝説』という本を使って、また、「鹿角地域の伝説」（秋田県鹿角地域振興局・十和田八幡平観光物産協会）というサイトを閲覧して、鹿角地区（鹿角市、小坂町）にはどのような伝説や昔話があるのかをメンバーで手分けして調べた。

伝説や昔話がたくさんある中で、紙芝居班はどの話を紙芝居にするか、マップ作成班はどの話の舞台を地図に載せるかを検討した。

2 マップ作成作業・紙芝居製作

地図に載せる伝説や昔話が決定すると、マップ作成班では、夏休みを利用して伝説の舞台となったところに行き行って写真を撮影してくる計画をたてた。しかし、夏休み中は部活動や3年生は進路に向けての補習等でそれぞれが忙しく、計画倒れに終わってしまった。また、ベースにする鹿角の地図をインターネットのサイトから見つけ出すことができず、とても苦労した。やっと「これだ」という地図を発見した時は、これでマップ作成班の生徒の作業を進めることができるという思いで胸がいっぱいになった。地図を切り貼りする作業をしていくと、鹿角と近隣の市町村のかたちができあがってくる。これに事前に作っておいた伝説のあらすじを貼り付けて完成である。

さて、紙芝居班のほうであるが、まず、紙芝居には、老人ホーム向けには「だんぶり長者」、保育園向けには尾去沢の鉱山発見伝説の「光る怪鳥」を採用することにした。採用する伝説は決定したものの、今度は絵と文章を考えなければならない。「だんぶり長者」の方は方言で語るところまではいいが、如何せん物語自体が長すぎる。これを適当な長さに編集し直した。「光る怪鳥」の方は、保育園の幼児向けということで、これまた平易な言葉にアレンジする必要がある。紙芝居班は全員が1年生ということもあって、なかなかうまく動けず、文章を考え、紙芝居の絵コンテを作成するところまでは生徒に協力してあげなければならなかった。しかも施設訪問・保育園訪問する直前にはかづの学の時間はなく、放課後の教室で作業することになってしまった。

読み手には 11/13（日）に花輪の旧関善酒店で

開催された「鹿角街道シンポジウム 鹿角の昔話を語る」で鹿角民話の会「どっとはらえ」のメンバーによる本物の語りを生で聴かせ、語りの勉強をさせた。（が、練習不足であった。）

直前までかかって、紙芝居は完成した。読み手、めくり手、司会進行と係分担をして、さあ、本番である。

3 施設訪問・保育所訪問

11月22日（火）、私たちは「北の郷」を訪問した。昨年もここにお世話になっていたのも、職員の方々も利用者の方々も大歓迎してくれた。生徒達ははじめマイクを使って話すことに抵抗を感じていたが、「おじいちゃんおばあちゃんは耳が遠いから」と職員の方に言われて、マイクを使って話すことになった。これは昨年の反省事項でもあるが、語る時、声が低いと施設には向かないということを感じていたのも、よいことだと思った。



＜鹿角伝説マップ作成中＞

「北の郷」では、「ひかるふしぎなとり」と「だんぶり長者」の2本だてで紙芝居を上演した。その後、利用者の方々とは短い時間であったが交流をし、老人ホームの利用者の方々が高校生の訪問に涙を流して喜んでくれたことに生徒たちも感動していたようである。

11月29日（火）、今度は錦木保育園での上演である。ここでは幼児の集中力と理解力を考え、「ひかるふしぎなとり」1本のみとした。高齢者はまだしも、幼児は飽きてくるとすぐに表情や態度に出てしまうので不安があったが、子供達が一生懸命に紙芝居を見てくれたことに生徒達も大喜びであった。紙芝居終了後、保育園の子供達と交流し、子供達も生徒もとても楽しそうであった。

生徒達の感想をいくつか紹介しよう。

★腕が疲れた！！ おばあちゃんたちに涙を流してもらえてうれしかった。子供達と楽しくあそべた。また行きたい。

★おじいちゃんおばあちゃんがうなずいてくれたり笑顔を見せてくれたので、とてもうれしかった。パワーをもらいました。自信をもてた！

保育園は小さい子ということで不安があったが、とても真剣にきいてくれたのでよかった。

★紙芝居では、最初全然完成しなくて、本当に困っていたが、先生の協力や紙芝居を披露する前日にみんなが残って絵の色塗りを手伝ってくれたのでなんとか完成することができた。間に合って安心したし、完成度も高かったのも、とてもよかった。



＜北の郷で紙芝居の上演＞



＜紙芝居「だんぶり長者」の1コマ＞

Ⅳ まとめと今後の課題

前年度、鹿角の民話を語るということで、暗記して語ることに重点を置いたのだが、今年度は暗記はせずに、紙芝居という媒体を利用して「語る（朗読する）」という形にしてみた。また、伝説のマップを作成することにより、伝説の舞台が一目でわかるように視覚的に訴えるものを作ってみようという思いから、このテーマに取り組んできた。なかなか思い通りにいかないこともあったが、結果的には紙芝居という媒体を通して地域の方々と交流し、伝説の舞台も知ることができたのは収穫であったように思う。

あとで思ったことだが、伝説の宝庫であるからにはその土地その土地に伝わる伝説が何かしらあるはずである。訪問する場所に合わせて語る話を選択するのも一つの手段であるかもしれない。

発表者 3A 刈谷 陽希

指導者 齊藤 恭子

はじめに

この鹿角の地で育まれてきた「鹿角弁」は地域に根付いたことばである。方言には、何とも言えない温かい響きを私たちに感じさせたり、なんでもない一言がある瞬間を目の前に浮かび上がらせたり、そして、人と人との距離を一気に近づけさせたりすることもある。

この鹿角で生まれ育った私たちにとって、欠かすことができない、そして絶やしてはいけないことばが「鹿角のことば」なのである。

I テーマ設定の理由

鹿角に住んでいる若者は共通語を用いることが多く、この鹿角のことばであってもわからないことばがある。一方で、おじいちゃんやおばあちゃんを中心に日々の生活の中では用いられているこの「鹿角のことば」の魅力を、是非、十和田高校生だけでなく地域の方々にも伝えたいと考え、テーマを設定した。

II 実施計画

- 1 全体オリエンテーション
テーマごとのオリエンテーション
- 2 2015年度版「鹿角方言かるた」
- 3 全校への「鹿角方言かるた」読み札アイデア募集
 - ・ポスター作成
 - ・アイデア募集用紙作成、回収、集計
- 4 施設訪問
- 5 コモッセ「よるとしよ」への参加
- 6 保育園訪問
- 7 「方言かるた」の作成
- 8 発表会に向けて

III 実践内容

- 1 オリエンテーション
(1) 全体オリエンテーション

十和田高等学校体育館において、全校生徒を対象とした「ふるさと教育の概要」の説明を受けた。

(2) テーマごとのオリエンテーション

前回の「全体オリエンテーション」を受けて、「方言」と「共通語」の違いや「方言」の意義について説明を受けた。

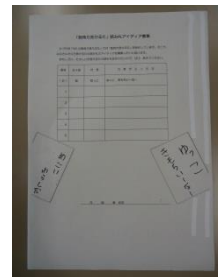
2 2015年度版「鹿角方言かるた」

6/21には今年度の方言かるたのメンバーで、十高の武道場を会場にして2015年度版の方言かるた取りを行った。

3 全校への「鹿角方言かるた」読み札アイデア募集

私たちのグループだけでは鹿角方言の収集は難しいと考え、十和田高校生全員から方言のアイデアを募集することにした。

そこで、各HRに掲示するためのポスターを全員で作成し、アイデア募集用紙を配布することによって全校のみなさんのご協力をいただいた。



4 施設訪問



10/25には「グループホーム せきがみ」を訪問した。そこでは、高齢者の方々に「方言かるた」を楽しんでいただけたよう、読み札を読む際には聞き取りやすいように2回読んだり、読み札を読み終えたら最初の音を周りの生徒たちが繰り返し発音することで聞き取りやすい環境作りに努めた。

5 コモッセ「よるとしよ」への参加

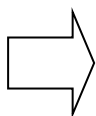


いつも札を読んでいる金澤君と成田さんは十和田高校オリジナル「方言かるた」とともに、11/11にコモッセの花輪図書館で催された「よるとしよ」に参加した。

子どもからお母さんまで地域の方々にも楽しんでいただくことができた。

6 保育園訪問

11/22には「錦木保育園」を訪問した。園児のかるた取りに向かっていく姿勢には全員が驚きを隠せなかった。だからこそ、かるたを取るためのルールを十分に説明し、方言かるたの数も増やして、もっと楽しんでもらえるよう気配りが必要だと感じた。



～子ども達の様子～

7 「方言かるた」の作成

全校に方言のアイデアを募集した結果、同じような方言があったり、聞いたこともない方言にも触れたりすることができた。

そこでまず、16人いるメンバーを5つのチームに分けた。

次に、チームごとに日本語の「50音」を2行ずつ分担した。全校に募集した方言のアイデアをもとに、それぞれのチームごとにかかるたとして作成するのはどの「鹿角弁」にするのか、検討した。どうしても見つからない音については、メンバーのお母さんが書きためていた方言ノートを頼りにできたのも心強かった。

このように「方言かるた」を作成していく中で今まで見たことも聞いたこともないことばに出会った。例えば、「えぐ」のように同じ意味を表すことばであっても「十和田」や「大湯」、「花輪」などの地域によっては微妙な違いがあることに改めて気づくことができた。

そして、2つの「方言かるた」を作成するに当

たり、今年度は「取り札」の字体と「絵札」のイラストに統一感を持たせることにし、十和田高校オリジナルの「方言かるた」が完成した。

是非、私たちが作成したすべての「方言かるた」を1枚1枚じっくりご覧いただきながら、かるた遊びにきてください♪



～2015年度作成～

「方言かるた」の一部

2016年度ヴァージョン

もお楽しみに～♪

8 発表会に向けて

私たち「方言かるた」のグループが作成した方言かるたで遊びながら、実際に方言に触れてもらいたいと思っている。

IV 評価（まとめと今後の課題）

私たち「郷土の方言研究」グループは、この鹿角にはどのようなことばがあるかということを知るための手がかりとして今年度も「方言かるた」を作成した。

その中で、自分たちが共通語だと信じていた「ちゃっこい。」などのことばが実は鹿角弁だったということに初めて気づき、とても驚いた。

また、私たち一人ひとりが生活に根付いたことばを用いることで、いかに相手によりよく自分の気持ちを伝えることができるか、もともとのことばの持つ意味合いや用いられた場面を想像しながら、状況にあわせて共通語や方言を使い分けて話すことも大切なのではないかな。

是非、この「方言かるた」に触れることで全校生徒のみなさんにも鹿角のことばの魅力を十分に味わっていただき、そして日常の様々な場面で方言を使うためのきっかけにしてもらいたい、と考えている。

この「鹿角のことば」の魅力を、今後も「方言かるた」を用いて方言に触れることによって、十和田高校を始め地域の方々にも伝えていきたい。そして、私たち自身がいつでも方言の持つ魅力に触れていくことが今後の課題である。

代表者 3A 阿 部 瑛 天
指導者 畑 山 翔 太

はじめに

地名は、私たちにとってとても身近なものであり、住所を示すだけではなく、地名を聞いただけでその地を思い起こさせ、時には懐かしさを感じさせる。鹿角の地にも多くの地名が存在するが、その名がつけられるまでにはさまざまな人の営み、自然の営みがあったのである。

今回は地名の由来にスポットを当て、それを探求する活動を行った。地名学という学問にも触れ、その難しさを感じながらの活動となった。学んだこと、考えたことを通して、ふるさと鹿角への愛着をさらに深めたいと考えた。

I テーマ設定の理由

昨年度のかづの学で十和田湖についての調査活動を行った中で、十和田湖の名前の由来がアイヌ語であるということを知ることから、鹿角の地名に興味を抱いた。地名の由来には様々な理由があるが、そこには鹿角ならではの自然環境や、これまでの歴史の歩みが見えてくるはずである。人口減少や過疎化が深刻になる中で、地名というものは時代を経ても変わらずに残るものである。地名から感じることが出来る鹿角の良さを調べ、鹿角に関する理解を深めたいと思い、テーマを設定した。

II 実施計画

- 1 講座オリエンテーション、グループ分け
 - ・十和田地区①（毛馬内中心）
 - ・十和田地区②（大湯中心）
 - ・花輪・尾去沢地区①（柴平～花輪駅）
 - ・花輪・尾去沢地区②（尾去沢中心）
 - ・八幡平地区
- 2 各担当地域の地名を出し合う、由来の予想
- 3 地図を用いて地名を細かく調べる
- 4～9
 - グループ調査活動
（インターネット・文献等による）
- 10～11
 - グループまとめ活動
- 12 全体まとめ活動
- 13 発表準備

III 調査・研究内容

1 グループ分け、由来の予想

グループ	生徒氏名（出身地区）
十和田①	加 賀 みなみ（十和田）
	大 西 結衣香（大湯）
	成 田 心 美（十和田）
	湯 瀬 夏 希（十和田）
十和田②	阿 部 翔 麻（八幡平）
	鎌 田 涼 平（十和田）
	角 宏 靖（大湯）
	阿 部 佑希也（大湯）
花輪 尾去沢①	兎 澤 晃 貴（柴平）
	田 中 夢 斗（花輪）
	黒 澤 二千翔（尾去沢）
	澤 口 由 佳（十和田）
花輪 尾去沢②	樋 口 遥 香（十和田）
	畠 山 香（花輪）
八幡平	阿 部 瑛 天（八幡平）
	相 川 俊 隆（花輪）
	阿 部 翔 馬（八幡平）
	小 舘 未 来（花輪）

生徒の中に小坂出身の生徒がいなかったことを考慮し、今回は研究対象を鹿角市内に限定した。地名に関しては、地元出身の生徒を中心に、「毛馬内」「尾去沢」などの大きな地名から、「三ノ丸」「四の岱」「乳牛」「石鳥谷」などの小さな範囲の地名などを挙げ、研究の対象とした。地図を見ながらの作業であったが、意外と知らない地名が多いことにも驚いた。由来の予想はどのグループも苦戦していたが、ユニークな予想が数多く出された。

2 グループ調査活動

本校図書館や十和田図書館での文献調査、ITルームでのインターネットによる調査を行った。だが、なかなか資料を見つけることができず、由来を知ることができなかったり、中には複数の由来が見つかったりと、調査活動は困難を極めた。

参考文献『地名の由来を知る事典』『地名の由来から知る日本の歴史』を読んだところ、地名の数があまりに多く、地名に関する研究は進んでいないということを知った。このことから、鹿角にある地名の由来をすべて検証することは困難だと判断し、ある程度のパターンをもとに、鹿角にある地名の由来を予想することを主な活動とした。

<地名の由来となり得るパターン> (鹿角の地名の由来に関わるであろうもの)

- ① 地形によるもの
- ② 農業や交通によるもの
- ③ アイヌ語の地名に漢字をあてはめたもの
- ④ 人の名前からとったもの
- ⑤ 信仰に関するもの

これらに加えて、以下のような変化も予想した。

- ① 方角や上・下・中などがつく場合
- ② 古い・新しいがつく場合
- ③ 別の漢字をあてはめた場合
- ④ もともとあった地名を合わせた場合

鹿角には多くの伝説があり、鉱山業や農業が栄え、山々や米代川・大湯川などの豊かな自然に囲まれている。これらが地名に表れているということが考えられる。

また、十和田湖の由来がアイヌ語であったように、東北地方にはアイヌ語によってつけられた地名が多いということが判明した。例えば、「小さな川」をアイヌ語で「ナイ」と言うため、「～ナイ」と読む地名は、「～な川」という意味のアイヌ語が由来であると考えられる。

3 まとめ活動

上記の手法をもとに、各グループで地名の由来を予想した。以下はその一部である。

<地名の由来>

十和田①

- ・三ノ丸…毛馬内に昔あった城のつくり由来する。

- ・南…毛馬内の城から見て南側の地域

十和田②

- ・黒又…黒又山（クロマンタ）の近くだから
- ・田代…田の占有権を認められたことから
(〇代…誰かの占有権をあらわす)

花輪・尾去沢①

- ・小平…平地にある小さな集落だから
- ・新町…花輪の町内の中で新しい町であった

花輪・尾去沢②

- ・高井田…高いところに位置している田
- ・久保田…くぼんだ地形から

八幡平

- ・湯瀬…湯が出る川のそば
- ・石鳥谷…昔あった石鳥谷館という城郭から

おわりに

今回の活動を通して、地名の由来にはさまざまなものがあるという事が分かった。鹿角の地名について、全てを確かめることができなかったことが残念だが、地名学を参考にしながら予想することで、どのような経緯で地名がつけられたのかを知ることはできた。そして、鹿角の地理や歴史が地名に表れているということを感じることができた。また、全体的に地形に関した地名が見られたため、今後は地名と地形との関係をもっと深く調べ、他の地域に同じような地名が付いていないかなどを検証したい。

毛馬内の地名は毛馬内の歴史を感じられたり、大湯や湯瀬の地名からは温泉地であることが感じられたりと、鹿角のそれぞれの地域の特色が地名には表れている。普段何気なく触れている地名にも歴史があるということをこれからも忘れずに過ごしていきたい。

参考文献

- ・武光誠『地名の由来を知る事典』
東京堂出版、1997年
- ・武光誠『地名の由来から知る日本の歴史』
ダイヤモンド社、2004年
- ・『角川 日本地名大辞典 5 秋田県』
角川書店、1980年

代表者 2A 廣 嶋 宙
指導者 佐々木 幸

はじめに

定期市とは、毎月一定の市日に開催される市のことである。日本では平安末期に定期市が出現し、室町時代には最盛期を迎え、その末期から江戸中期に至り、商業活動が活発になるにつれて衰退し、廃止されている市もあれば、現在に継承されている市や、明治・大正・昭和期に入って新設された定期市もある。この調査では、定期市の変容や状況を調べ、課題や実態を研究し、これからの定期市の方向性に迫っていきたい。

I テーマ設定の理由

花輪、大湯、小坂、毛馬内の地域で朝市が定期的に行われているが、その存在は意外に知られていない、あるいは知っていてもそれほど利用する機会がない。この研究では、スーパーマーケットやコンビニエンスストア、チェーン店が増えて便利になった現代において、今なお昔ながらの朝市がどのように開催されているのか、どのような人が利用しているのか、時代とともにどのように変化してきたのかを改めて調査し、その魅力や実態、課題について理解したい。

II 実施計画

- 1 全体会とテーマ別オリエンテーション
(5月12日)
- 2 テーマとグループ決め
(5月26日、6月9日)
- 3 グループ毎の調べ学習
(6月23日、7月14日)
- 4 朝市の見学、調査
(7月12日、8月7～8日、19日、21～23日)
- 5 朝市の見学調査のまとめと報告
(10月6日)
- 6 グループ学習
(10月20日、27日、11月10日)
- 7 発表原稿の作成
(12月3日)

III 調査内容

- 1 事前調査
- 2 現地見学

- ①毛馬内地区
- ②大湯地区
- ③小坂地区
- ④花輪地区

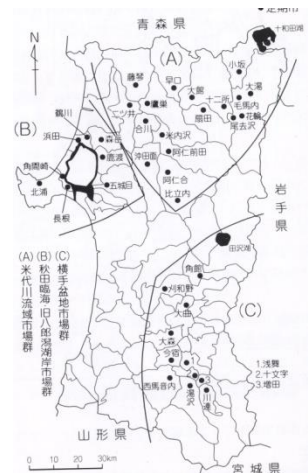
①～④の朝市で、出店の規模や店数、利用客や出店者への取材を行った。



3 文献調査

3-① 鹿角地域朝市発祥の地理的な理由

秋田県北部を流れる米代川の本流とその流域に存在する定期市群に、鹿角の定期市が含まれている。鉄道開通の明治後期頃までは、その活発な河川交通が、県北の交通動脈となっていた。その背景には、多くの鉱山や豊富な森林資源を有し、それを元に発達していった河港集落の存在がある。こういった地理的な条件で、米代川の本、支流地域に定期市が開設されていたのではないかと考えられる。



3-② 鹿角の定期市の起源

a. 花輪定期市の起源

鹿角地方は、明治4年(1871)の廃藩置県までは、南部藩の領地であり、したがって南部との交流が盛んであった。藩政期に奥州街道と羽州街道のアクセス路としてあった鹿角街道(別名 津軽街道)は、現在の国道282号であり、地域経済・文化の流通路として生き続けている。

天和3(1683年)に始まったとされる花輪朝市は、「まちの日」「市日」と呼ばれ、地元住民に親しまれてきた。かつては鉱山が繁栄し、青森や岩手両県とも接していることから、文化・経済の交易拠点として発展を遂げてきた。『鹿角市史』(第2巻上下)によれば、やはり天保3年(1832)の古文書に、「市日が開かれた」と記録されており、また、「豊凶聞書」(小坂町郷土館蔵)には元禄16年(1703)以

前に開設されていたことが記録されていることから、花輪市の存在が裏付けられる。

b. 毛馬内朝市の起源

毛馬内は慶長 12(1607)年ごろに建設が始まったとされる小城下町である。在住する武士や商工業者らに加え、さほど離れていないところには白根金山があり、多くの消費人口を抱えていたとされる。町造りが始まったのとあまり変わらないところに、市日の起源はさかのぼると見られている。

c. 小坂朝市の起源

かつて鉾山の町として栄えた小坂町。国道 282 号沿いで毎月開催されている栗平市日は、鉾山が活況していた明治 22(1889)年に開設されたと言われている。小坂では、鉾山開発に従って、明治 22 年小坂鉾山市として登場し、明治 38 年には中心街の尾樽部に移動した。戦後の昭和 46(1971)年には、小坂鉄道小坂駅前と栗平地区の 2 箇所に分離した。その後も市場開設地の移動が見られる。

d. 大湯定期市の起源

大湯市も毛馬内花輪と共に、在方市としてすでに藩政期に開設されていた。その起源は不詳であるが、『鹿角史伝』(第 2 巻・下)によれば、天和 2 年(1682)以前には開設されていたとされる。となると花輪や毛馬内よりも、市の歴史は古いことになる。

e. 閉山した町・尾去沢の定期市

尾去沢は、1200 年という国内随一の長い鉾山歴史を誇りながら、鉾脈の枯渇と市況低迷にあって、昭和 53 年に閉山に至った。最盛期には 6000 人もの従業員を抱え、鹿角全域の経済を潤してきた鉾山であったが、藩政時代の市場開設の記録はない。おそらく、近距離にあった花輪が、尾去沢住民の生活物資を供給していた為と考えられる。花輪は尾去沢の鉾山景気と購買力に大きく支えられて繁栄してきた。また、花輪の朝市は日常的な物が数多く並んでいる。それも、鉾山町の暮らしを支える市であったためである。

IV まとめと今後の課題

花輪を取り囲む背景には、諸鉾山の隆盛があり、その鉾産物などや、資材を輸送する米代川の河川交通も、定期市が発達した大きな要因であると考えられる。また、青森、岩手、秋田の接点となる交通の要衝であったことも理由にあげられる。

交易の名残か、鹿角ではサメを食べる風習があ

る。山の市であるにも関わらず、古くから海と山の交易があったため、市でも海のものも売られてきた。交易や過去の市の名残が、私たちの生活につながっていたことを発見できた。

花輪定期市は、観光市場としての役割も持っていることがわかった。「マインランド尾去沢」や既存の国立公園十和田・八幡平並びに温泉地と結合させ、観光物産館「あんとらあ」の施設とともに、観光市場として存在していた。そのためか、花輪定期市は、鹿角地域の定期市の中で一番規模が大きく、活気があった。



毛馬内定期市へ出店する
岩手県鳥越のかご屋
(平成 5 年撮影)

4-①今後の課題

朝市は、市場としての役割だけではなく、鹿角地域の歴史を伝える貴重な文化遺産であるということがわかった。一方で、朝市が抱える数多くの課題も見えてきた。ひとつは、定期市の市日の問題である。平日の市日は若年層の利用が難しい。また、現地調査でもわかったように、朝市は高齢化社会の現実が反映しており、若年層の買い物市場のイメージが無い。スーパーやコンビニ等、多くの種類の商品をそろえ、長時間営業によって消費者の利便性を図る店との競合では勝算は薄い。

現地調査を行っている中で、熊の胃や熊の油を発見したが、そのような地域独特なもの、スーパーでは買えない商品も他の小売店との違いを打ち出すヒントとなるのではないかと考えた。今回の現地調査では発見できなかったが、ひよこや金魚が売っている時もあるという。また、対面販売が朝市の良い所だという声が、利用客や出店者から数多くあがった。数多くの解決すべき課題を抱える現実ではあるが、地域住民を支え、伝統が残る朝市を今後も残していけるよう解決策を模索していきたい。

主な参考文献…

- 仙道 良次『秋田県の定期市』
(1999)川井書店
- 鹿角市史 第二巻上下
- サンデー毎日 (2016 年)
「とことん 1 日旅街ものがたり」
2016 年 3.6 号, P134
- 秋田さきがけ新聞「秋田の市」2007 年 1 月 30 日
- 秋田さきがけ新聞「秋田の市」2007 年 2 月 27 日
- 秋田さきがけ新聞「秋田の市」2007 年 3 月 27 日

代表者 3B 工 藤 実 穂

指導者 長 里 加奈子

はじめに

毎月一定の日に開設され、「市日」「朝市」と呼ばれている定期市が、十和田高校のある地元、毛馬内地区をはじめ、鹿角市や小坂町の各地域でも開催されている。鹿角地域は昔ながらの伝統文化が大切に継承され、色濃く残っている地域で、朝市も、地域の歴史や生活と密接に結びつきながら、現在まで続いているものである。ぜひこの発表を機に、地域や歴史への理解をもっと深めて、さらに地域の今後についても考えてゆきたい。

I テーマ設定の理由

身近なところで開設されている朝市であるが、高校生の私たちは、日頃、それほど利用する機会がない。鹿角地域ではそれぞれの地域で定期市が開催されているが、何日に開催されているのか、その歴史や由来など、まだ知らない部分がたくさんある。

この研究では、スーパーマーケットやコンビニエンスストア、チェーン店が増えて便利になった現代において、今なお昔ながらの朝市がどのように開催されているのか、どのような人が利用しているのか、時代とともにどのように変化してきたのかを改めて調査し、その魅力や実態、課題について理解したい。

地元の人たちが昔から大切にしてきた朝市の研究を通して、地域の文化を理解し、地域の魅力の一つとして今後に受け継いでいくことができると考えた。

II 実施計画

- 1 全体会とテーマ別オリエンテーション
(5月)
- 2 テーマとグループ決め
(5月、6月)
- 3 グループ毎の調べ学習
(6月、7月)
- 4 朝市の見学、調査
(7月～8月の夏休み期間)
- 5 朝市の見学調査のまとめと報告
(8月～9月)

6 グループ学習

(10月～11月)

7 発表原稿の作成

(12月)

1 事前調査

インターネットや電話を使って、朝市の開設日、開設場所を調査した。

2 現地見学**2-①毛馬内地区**

毛馬内地区の朝市は、毎月2と7のつく日にこもせ通りで開設されている。今回、私たちは7月22日の朝8時と8月2日の朝9時の2回に分けて調査・見学を行った。出店している人に何を売っているのか、何年くらい出店しているのかなど質問をした。その結果、昔よりも店の数も客の数も減っている事が分かった。60年以上前から出店している店もあり、そのような店では2代以上にわたって出店している店もあった。お年寄りが一人で出店している店もあった。

品物は鮮魚、野菜、手作りのもちのほか、カップ麺などの日用品もあった。また、季節によって販売される商品が違っていることも分かった。

出店している方の話では、昔は市場での物々交換だったそうである。また、鹿角地域では、鉱山がなくなった後、人口が減り、それに伴って朝市も縮小してきたそうである。毛馬内の朝市も、昭和の頃には人が多くて通りの反対側が見えなくなる程の賑わいがあったそうだ。しかし現在では、地域にスーパーマーケットができたり、家庭の買い物を主に担当する事の多い女性たちが、社会に出て働くが多くなったりした事から、地域の買い物の場が、日中の朝市から、仕事帰りでも便利なスーパーへと変化した事も大きい。それでも、「低迷しつつも、現存の店の人たちは頑張っている」との印象を受けた。

2-② 大湯地区

大湯地区の朝市は毎月4と9のつく日に、大湯のかくら荘周辺に開設されている。今回、私たちは8月9日午前9時頃に調査・見学を行った。

出店数は9～10店舗、出店者も買い物客もお年寄りが多めという印象を受けた。鮮魚、青果、野菜、生花などの商品が主で、店の人によると、スーパーの品物よりも新鮮である事が朝市の利点との事であった。それでも昔と比較すると店も人も減少しており、これはスーパーマーケットができたことが主な原因とのことであった。



2-③ 花輪地区

花輪地区の朝市は、毎月3と8のつく日に関善酒店の前で開設されている。今回、私たちは8月3日に調査・見学を行った。

花輪地区の朝市は、約300年前、江戸時代に始まったとされ、鹿角地区の朝市の中では最も規模の大きな市場である。昔は上町と下町とで、交代で市日を開設していたが、昭和6年頃に現在地にまとまって販売するようになったそうである。

現在の市日開設の理由は観光目的でもあるが、昔と比べて出店数は減少しており、この日は約25店舗が出店していた。

出店している人の話では、昔と比べて出店数が減り、売り上げは下がる一方であり、これはスーパーなどの大型店が増えたことが大きいそうである。それでも、対面販売方式ならではの利点もある。出店者に聞いたところ、値切りをしてあげられる、お客さんとコミュニケーションがとれる、情報交換ができる、などが対面販売方式の利点のようだ。

買い物客はお年寄りが多かったが、中にはお使いの子どもや、朝市の日に出店されるババヘラアイスを目的にやってくる子どももいた。



IV まとめと今後の課題

今回のふるさと学習では、実際に朝市にいい手見てそれぞれの地区での実際の店の様子を見ることができた。また、お店を出している方たちから直接話を聞くことができた。

それぞれの地区の朝市の様子を照らし合わせてみると、鹿角地区の朝市はそれぞれ日にちをずらして開設されており、今日は毛馬内、明日は花輪の朝市、というように、複数の朝市に掛け持ちで出店している出店者もいた。

どの地区の朝市も、出店数、来客の状況ともに縮小傾向にあり、これは私たちの地元である秋田県や鹿角市の人口減や、地域の人々の年齢や職業の変化、交通事情の変化と密接に結びついていた。

主な参考文献…

- 仙道 良次『秋田県の定期市』(1999)川井書店
- 鹿角市史 第二巻上下
- サンデー毎日 (2016年)
「とことん1日旅街ものがたり」
2016年3.6号, P134
- 秋田さきがけ新聞「秋田の市」2007年1月30日
- 秋田さきがけ新聞「秋田の市」2007年2月27日
- 秋田さきがけ新聞「秋田の市」2007年3月27日

【伝統・文化】 6 鹿角・毛馬内ふるさと情報をホームページで発信しよう①

代表者 3B 佐藤 響
指導者 土門 祐子

はじめに

鹿角・毛馬内の地域情報発信のホームページ作成を最終目標とし、各班がテーマ選定を行い、自分たちで訪問、体験、調査するスタイルでまとめたものである。ホームページ作成は最初は難しさを感じられ大幅に時間を要したが、簡単なページを自分たちで作成するところまで何とかたどり着いた。テーマ研究と同様かそれ以上にホームページ作成方法の学習になったグループになった感もある。

◆グループ分けと各テーマ一覧

班	テーマ	組	氏 名
1	鹿角の山菜	3B	佐藤 響
		3B	黒澤 諒介
		3B	高橋 棕一
2	鹿角の隠れたお店	2C	大森 夢月
		2C	畑沢 美佳紗
		2C	児玉 里穂
		2A	勝田 詩織
3	鹿角の温泉	2A	赤坂 悠介
		2A	上田 一稀
		2A	梅津 航洋
		2A	高橋 諒
		2A	柳澤 翔哉

I テーマ設定の理由

テーマは生徒が自由に設定できる。ただし、この地域の店舗、情報、紹介などから決定することを条件とした。どのグループもそれほど迷うことなくテーマ設定ができたが、テーマによって訪問や体験や見学など、それぞれ活動計画が違うため、他グループの真似はできず、自分たちで計画を立てなくてはならないことで、リーダーシップや自主性が培われた。

II 実施計画

- 1 全体会とテーマ別オリエンテーション
- 2 テーマとグループ決め
- 3 テーマに対する調査方法の決定
- 4 訪問・体験・資料収集
- 5 まとめ
- 6 ホームページ構成の検討
- 7 作成のしかたを学習
- 8 ホームページ作成
- 9 プリントアウト・発表原稿作成
- 10 振り返り・反省等

III 実践内容

①テーマについて

1. 活動しやすいように小グループを作る。
2. 毛馬内商店街マップを参考にしたり、登下校の際に見ているお店や、紹介したい施設設備または自然・風景・産物などから、テーマを選定する。
3. 決定したテーマに対し、訪問が必要であれば、アポイントをとる、体験が必要であればグループで訪問日を決め、実際に訪問する。事前調査が必要であれば資料収集など各グループで調査方法を決める。店舗内の写真をホームページに載せる場合は、写真撮影とホームページに転載しても良いかの許可を忘れてはいけない。
4. 取材内容をまとめると同時に、ホームページ作成のためのHTMLタグの学習も進める。
5. 1回の取材で制作材料が不足であれば、再度訪問や調査をする。
6. それぞれのホームページを本校のホームページからリンクできるようにする。

②ホームページについて一部を紹介

1 班「鹿角の山菜」



「こごみ」に目を付けるとは中々「ツウ」です。



「たらのめ」すでに天ぷらにされて、食べる前提になっていますが… (笑)



「くらみせ」皆さん知っていますか？
カレー美味しかったです。



毛馬内商店街にあります

まだまだ紹介したいのですが、ぜひ発表会やホームページでご覧ください！！

そして、HTML のタグも紹介したいと思います。大変字が小さく見にくいのですが、2 班のホームページのタグを紹介します。色々と試行錯誤しながら完成したようです。

これから簡単なホームページくらいは作れるようになりたいと思っている人！メモ帳にこのように入力すると、発表会で紹介するページができるのです。打ち込みは大変ですが、その達成感と何よりも「自分が紹介したいことが世界に発信できる」というワクワク感は素晴らしい楽しみです。

```
無題 - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)

<html><head><title></title></head>

<body bgcolor=white>
<center><font color=black size=9>
隠れたお店について
</font></center><hr>

<font color=#00FFFF size=7>まちや</font>
<font color=black size=6><br>

<P>毛馬内BON通り商店街にふれあいの駅「まちや」がオープンしました。<BR>
無料休憩スペースのほか、カレーやうどん、コーヒーなどの軽喫茶もあります。
平日の日中は営業しており、どなたでも利用可能ですのでお茶を飲みに行ってみてください。営業時間は、月～金の午前10時～午後3時まで。</P><P>土日は休業しますが、毛馬内朝市の開催日(2と7のつく日)は営業します。</P>
<P>『所在地』鹿角市十和田毛馬内字毛馬内9 十和田南駅出口から徒歩約26分</P>

<br clear="left"><br></font><hr>
<font color=#00FFFF size=7>くらみせ</font>
<font color=black size=6><br>

<P>宮国独特の建築様式こもせ通りが誇る毛馬内のまちなか。</P>
<P>そこに古くからある蔵を改装した重厚な外観が特徴の店舗では、店内の落ち着いた雰囲気の中で、地元鹿角で育まれた肉厚で濃厚な旨みを持つ比内地鶏や、鹿角産米の「あきたこまち」「淡宮こまち」を使用したお料理をご堪能いただけます。</P>
<P><P>『所在地』鹿角市十和田毛馬内字毛馬内62-2<BR>営業時間 10時～19時
休業日 毎週日曜日</P><P>〔徒歩〕JR十和田南駅から約24分<BR>〔車〕十和田ICから
国道103号経由で約10分</P><br clear="left"><br></font><hr>

<font color=#00FFFF size=7>まとも</font>
<font color=black size=6><br>この他にも、鹿角には隠れたお店がたくさんあります。
Angel・山水亭・こもも・カラオケアップルなど、ぜひ探してみてください。
</body></html>
```

Ⅳ 評価

この研究を通じて、鹿角や毛馬内への郷土愛が育まれることを期待している。特に3年生は卒業後には地元から離れる生徒も多いため、この「かづの学」を今は学校の授業でやっていることだというとなえ方かもしれないが、いつか生まれ育った鹿角・毛馬内、母校である十和田高校を懐かしみ、誇りを持って紹介して欲しい。今は特別ではない日常も、どんなに見慣れた風景も、いつかあらためてその有難さや良さに気付くかもしれない。地元の良さをたくさん再発見して欲しい。

【伝統・文化】 7 鹿角・毛馬内ふるさと情報をホームページで発信しよう②

代表者 2B 成 田 裕 也
指導者 小笠原 和 寿

はじめに

鹿角・毛馬内にある店舗や地域情報等のホームページ作成と紹介をするというテーマのもとスタートした。17人を4つのグループに分け、自分達でホームページ作成をする内容を決定し、実際にアポを取り、訪問・体験そこに行ったり、食べたり、お話を伺ったり、資料を調査したりなど、各グループで独自のアプローチをし、最終的には簡単ではあるが、各グループがホームページを作成し、学校のホームページにリンクさせ、ささやかながら鹿角・毛馬内の地域情報を発信しようと思うものである。

◆グループ分けと各テーマ一覧

班	テーマ	組	氏名
1	鹿角のラーメン店	2B	一 戸 柊 弥
		2B	成 田 裕 也
		2B	佐 藤 翔
		2C	横 渕 直 斗
2	鹿角の川に生息する魚について	1B	殿 村 志 恩
		1C	大 森 敬 太
		1C	兎 澤 柊 人
		1C	兎 澤 珠 利
3	御生掛温泉について	1C	秋 本 綾 華
		1C	安 保 甫
		1C	晴 澤 未唯奈
4	整骨院なごみの紹介	1B	金 子 瑠 亜
		1B	菅 原 桃 音
		1C	橋 野 亜里沙
		1C	藤 田 希 望

I テーマ設定の理由

学校周辺は毛馬内商店街をはじめ、歴史も古く、また、十和田湖、八幡平等の観光地もあることから商店街や街並みそのものの観光に訪れる方はいるが、残念ながら各店舗で商品を購入したり、立ち寄ったり、食事をしたり等をするためではない場合が多いと聞いたことがある。商品やサービスの売買はもっぱら商店どうしや周辺住民のみに限られているという事を知り、お店の方々には商品をアピールする機会と、お店の方の人柄やお店の雰囲気を紹介すること、または、鹿角の大自然が産み出す多くの農産物や名所や施設もあることから、その中から川魚や温泉についてピックアップして調査したグループもある。

II 実施計画

- 1 全体会とテーマ別オリエンテーション
- 2 テーマとグループ決め
- 3 テーマに対する調査方法の決定
- 4 訪問・体験・資料収集
- 5 まとめ
- 6 ホームページ構成の検討
- 7 作成のしかたを学習
- 8 ホームページ作成
- 9 プリントアウト・発表原稿作成
- 10 振り返り・反省等

III 実践内容

①テーマについて

1. 活動しやすいように小グループを作る。
2. 毛馬内商店街マップを参考にしたり、登下校の際に見ているお店や、紹介したい施設設備または自然・風景・産物などから、テーマを選定する。
3. 決定したテーマに対し、訪問が必要であれば、アポイントをとる、体験が必要であればグル

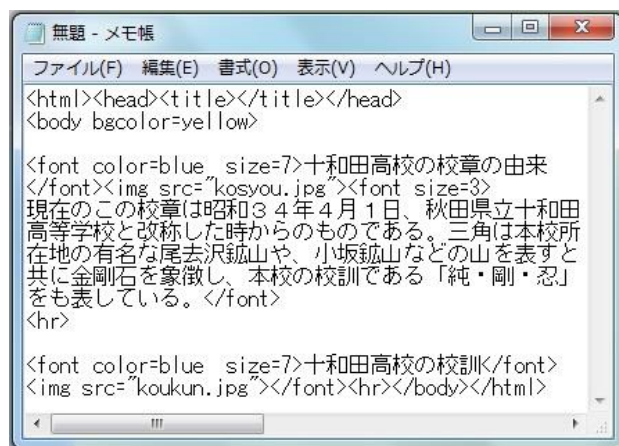
ープで訪問日を決め、実際に訪問する。事前調査が必要であれば資料収集など各グループで調査方法を決める。店舗内の写真をホームページに載せる場合は、写真撮影とホームページに転載しても良いかの許可を忘れてはいけない。

4. 取材内容をまとめると同時に、ホームページ作成のための HTML タグの学習も進める。
5. 1回の取材で制作材料が不足であれば、再度訪問や調査をする。
6. それぞれのホームページを本校のホームページからリンクできるようにする。

②ホームページについて

1. 実際に構想や作成に入ったのは、9月頃からである。いままでホームページを作成したことはなかったので最初は戸惑ったが、学習を続ける事で作成できるようになった。
2. ホームページ作成は数万円もする作成ソフトなどを買わなくとも、パソコンにある「メモ帳」を使い、HTML タグという言葉を使えば誰にでもすぐ簡単に作る事ができると分かった。
3. 皆さんも今後、自分のホームページを作りたいと思ったり、または、ホームページ作成を誰かに頼まれた時は、簡単なもの（フォント、大きさ、配置、色、写真、配置、簡単なアニメーション、リンク程度）で良いなら、高いソフトを購入しなくても簡単に作る事ができるし、さらに、自分の勉強になる。
4. ただしタグを覚えるのは大変なことなので、インターネットのタグ集などを参考にしての作成になる。単純なものはずぐできるが、もし、リンクを多く作ったり、字を点滅、移動、変色、変形など様々なデコレーション要素を入れたり、メニュー画面とメイン画面を分けたり、カウンターやトピックス、新着お知らせなど一般的なホームページのようにしようとするとかなりの知識や労力が必要となることを追記しておく。

◆参考までに、どのパソコンにも必ずインストールされている「メモ帳」にHTMLのタグという言葉を下図のように打ち込むだけで…



こんなホームページが出来上がります。この程度のページであれば、高価なソフトを購入する必要はありません!!



IV 評価

店舗の決定、調査、訪問等は比較的順調に進められたがホームページ作成の導入部分は戸惑いがあった。初めての試みであったが、この学習を通じてシンプルな企業紹介程度のページであれば誰でも作ることができるようになった。

代表者 3B工藤和輝

指導者 岩谷宣行

はじめに

鹿角地域は北海道と同じ冷帯に分類される。冬季の最低気温は-12.9℃、1月の平均気温は-2.5℃(2016)と、北海道以南では非常に冷え込みが厳しい地域である。一方で夏季の暑さは厳しく、最高気温は35.7℃まで上昇することもある(2016)。この寒暖の差は、果樹栽培をはじめとして好条件となる農作物も多い。

鹿角地域には、これからを期待されるブランド農産物が多数展開されている。これらの生産構造と流通形態を調査し理解することで、①ふるさとの素晴らしさの発見、②ふるさとへの愛着心の醸成、③ふるさとに生きる意欲の喚起、④ふるさとについて発信する力の育成、の本校ふるさと教育「かづの学」が掲げる4目標の達成を図りたい。

I テーマ設定の理由

鹿角の地域ブランド農産物としては、「北限の桃」や「鹿角りんご」といった果樹、ブランド米として首都圏へも出荷されている「淡雪こまち」や平成27年度に初出荷された「秋のきらめき」、さらには強烈な辛みが特徴の「松館しぼり大根」といった野菜がある。畜産物としては「かづの牛」や、「十和田高原ポーク」及び「八幡平ポーク」として知られる養豚業も盛んである。ふるさと教育「かづの学」を展開していくにあたり、年度ごとに対象とする農産物を設定し調査・研究していく計画を立てた。平成26年度に調査した「北限の桃」、27年度の「淡雪こまち」に続いて、今年度はその希少さから生徒はあまり食したことのない「かづの牛」を研究対象とすることにした。

II 実施計画

- 1 受講者へのオリエンテーション
- 2 肉牛について(講義)
- 3 秋田県畜産農協より講師を招いての講話
- 4 かづの牛放牧場の見学
- 5 かづの牛の飼育について(講義)
- 6 かづの畜産まつりへのボランティア参加
- 7 秋田県畜産農協鹿角畜産市場での競り見学

8 発表会へ向けての役割分担

9 パワーポイントの作成とプレゼンテーション(講義)

10 ふるさと教育「かづの学」発表会

III 調査・研究内容

1 牛の種類

日本人が食べている牛肉の約6割は、オーストラリアかアメリカ合衆国から輸入されたもので、残りの約4割が国内産である。国産牛肉のうち「和牛」とよばれる肉は45%程度、55%は乳用種(ホルスタイン種の去勢雄牛)、乳用種と和牛の交雑種となっている。「和牛」は、明治以前からわが国で飼われてきた牛を改良したもので、「黒毛和種」「褐色(あかげ)和種」「日本短角種」「無角和種」の4品種がある。

(1) 黒毛和種

小型で成長するのに時間のかかっていた在来和種に外国産肉用種を交配して作出された。産肉能力の改良に重点がおかれ、肉質が優れている。全国各地で飼われ、和牛の9割以上を占めている。

(2) 褐色和種

熊本県や高知県で多く飼育されている。起源は朝鮮半島と考えられている。外国産肉用種との交雑による改良がなされ、熊本系と高知系がある。牧草などの粗飼料でも良く育つ。

(3) 日本短角種

在来の南部牛にショートホーン種を交雑して作出された。肉用種としては大型である。肉質や枝肉歩留では黒毛和種に劣るものの、粗飼料でもよく育ち、放牧に適している。岩手、青森、秋田、北海道の一部などで飼育されている。

(4) 無角和種

山口県で在来の黒毛の和牛にアバディーン・アンガス種を交雑して改良した、角のない牛である。成長が早く、粗飼料でも良く育つ。

2 生産構造

(1) かづの牛とは

かづの牛は、鹿角地域で飼育される日本短角種をさす名称である。黒毛和牛のような美しい脂肪＝サシを求める「霜降り」ではなく、牛肉本来の赤身の美味さ、低脂肪でヘルシーさを目指した牛肉である。1957（昭和 32）年に「本邦の肉用牛品種としての改良増殖をめざしていく」ことを掲げ、青森、岩手、秋田の 3 県によって「日本短角種登録協会」が設立された。これにより、日本短角種は日本固有の牛として認められることになった。

秋田県畜産農業協同組合では、1991（平成 3）年に繁殖肥育センターを開設した。鹿角地域で肥育され、出荷される日本短角種の牛を「かづの牛」としてブランド化し販売している。

(2) 生産の特徴

かづの牛の飼育は「夏山冬里」とよばれる方法で行われている。5 月～10 月は放牧飼育、11 月～4 月は舎内飼育である。夏季の「放牧飼育」が最大の特徴といえる。

放牧飼育のメリットは、放牧期間中は飼養管理が軽減され、他の農作業（稲作・畑作）に専念できることがあげられる。また、放牧場への委託料は発生するものの、舎内飼育よりは低コストでもある。

鹿角地域の放牧は、1999（平成 11）年までは牧野組合が運営する 6 つの牧場で行われていた。現在は曙牧野（鹿角市八幡平字田ノ沢）、川島牧野（鹿角市十和田大湯字川島）、熊取平基幹牧野（鹿角市十和田大湯字大湯国有林）、熊取平共同牧野（同）に再編され、4 牧場に黒毛・褐色・短角の成牛 230 等（短角 108 頭）、育成牛 29 頭（短角 12 頭）を放牧している。

3 流通形態

(1) 競りについて

秋田県内には、鹿角、広域由利、大曲の 3 つの家畜市場があった。これらは 2012（平成 24）年に統合され、由利本荘市に「あきた総合家畜市場」が開設された。その中であって、特定品種である日本短角種、褐毛和種の取引は鹿角家畜市場で継続されている。競りは年 1 回で、10 月の最終火曜日に開催されている。図 1 のように、近年は消費者の食への関心の高まりや多様化の影響もあり、日本短角種の子牛取引相場は上昇の傾向がみられる。今年度の最高値は品評会で最高の優等賞を獲得した子牛で、54 万 6 千円であった。

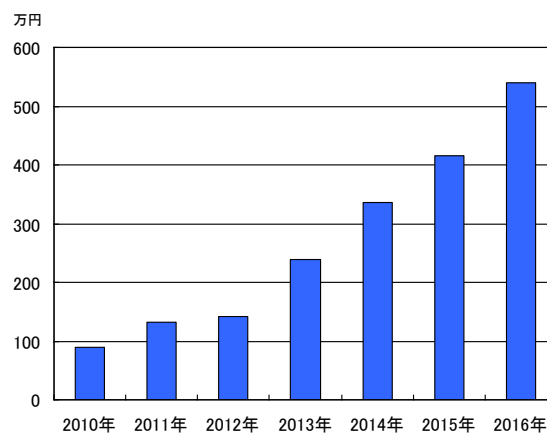


図1 かづの牛の子牛取引相場の推移

(2) 流通・販売

かづの牛の流通に関しては、約 70 頭が市場に出荷されるに過ぎないため、希少価値の高いブランド牛である。販売は 1992（平成 4）年に開始された。1995（平成 7）年より、加工品の販売も始まった。ビーフジャーキー、ハンバーグ、ハム、ウインナー等が商品化されている。

秋田県畜産協同組合では、1996（平成 8）年より精肉販売を開始し、1998（平成 10）年には直営店舗として「かづの牛工房」を開設した。現在では、地元精肉店・スーパー、宿泊・観光施設、学校給食など、地産地消型で販売を行っている。

また、首都圏においてもかづの牛をメインにしたレストランも開店するなど、「幻の牛」として注目を集めている。

(3) これからの展開

かづの牛は、近年出荷頭数が増加してきている。2011（平成 23）年には「かづの牛振興協議会」が設立され、行政・流通・生産者等が一体となり「かづの牛ブランド」のさらなる強化を目指した努力の成果といえる。後継者不足といった問題を抱えるものの、これまで以上に消費者に認知される存在になり、状況が好転することが望まれる。

Ⅳ おわりに

「かづの牛」の生産構造と流通形態を明らかにし、本校生徒及び地域の方々に提供できたことは大きな成果である。また、かづの畜産まつりにもボランティアとして参加させていただき、かづの牛と地域との関係について直接関わることもできた。今後は、鹿角の他の農産物についても調査しまとめていきたいと考えている。

代表者 3B 四 戸 芹 奈

指導者 菅 原 真紀子

はじめに

地域ブランドとは、その地域の自然、歴史・文化、食、観光地、特産品、産業などの地域資源の付加価値を高め、他の地域との差別化を図ることにより、情報発信力や競争力を高め、住民の自信や誇りだけでなく、旅行者や消費者に共感、愛着、満足度をもたらすものであり、そのためのすべての行動を地域ブランディングと呼ぶ。

これまで、かつの学ではさまざまな視点から鹿角の素晴らしさ、つまり地域資源についての研究・調査がおこなわれてきた。しかし、それらのアウトプットにはいまだ改善の余地がある。そこで、鹿角の豊富な地域資源を活用し、その分野のみならず地域全体としてのブランドにまで高め、地域活性につなげたい、というのが本講座の主旨である。

I テーマ設定の理由

日本国内の地域ブランディング成功事例を調べると、さまざまな地域が地域ブランディングによって活性化し、文化の継承や雇用創出などの社会問題の解決に寄与している。その地域にある自然や文化、人的財産などを見直し、時代に即した再発信をすることで、地域が活性化され、若者の定住や他地区からの移住、観光客の呼び込みなどの新たな価値を生み出していくのである。

鹿角に即して考えると、高校生の地元志向は他地区に比べやや高い感触があるものの、伝統文化の継承にはつながっていない。また、豊かな自然が生み出す特産品は豊富ではあるが、全国的な知名度が高いものは少ない。そこで、現在の鹿角に必要な『発信する力』に焦点を絞り、5つのテーマを取り上げ、再発信する手立てを考えてみた。そのうちの ①花輪ばやし ②桃豚 について、以下に述べる。

II 実施計画

- 1 オリエンテーション
- 2 地域ブランディング成功事例の研究
(各自地域ブランディングの一例を調査し、パネル作成と2分間の口頭発表を行う)

- 3 鹿角市の産業ブランドアップ施策について
(鹿角市どこさデモ出前講座)
- 4 鹿角におけるブランディングを考える
(グループごとに鹿角のブランディングを考え、発表準備を行う)
- 5 発表

III 調査・研究内容

生徒の発表要旨を以下に掲載する。

① 花輪ばやし

私たちにとって最も身近な祭の一つであり、花輪の顔といっても過言ではない花輪ばやしが、ユネスコ無形文化遺産に登録された。しかし、年々若者の参加数が減少しているため、未来に受け継ぐにはいろいろな対策が必要である。

そこで、地域の若者向けの対策と、観光客の中でも特に外国人向けの対策を考えた。若者向けの対策としては、町内以外の人でも気軽に参加できるよう、祭期間中に太鼓などを実際に叩ける体験型のコーナーを作り、広く参加者を募る、ポスターなどでもっと参加したい人を集める、友達に声かけをする、などの方法を考えた。また、外国人向けのパンフレットを、英語だけでなく中国語、韓国語、ロシア語で作成し、祭期間中に観客に向けて配布できる体制を整える、ということ考えた。

ユネスコ無形文化遺産登録は、これまで以上に他県や世界にむけて花輪ばやしをアピールするチャンスだが、後継者不足では話にならない。今こそ真剣に考えていかなければならない。

② 桃豚 ～桃豚の魅力をアピールしよう～

十和田高校の近くに桃豚販売所「こもも」があり、登下校で目にしている。この桃豚をより多くの人に知ってもらいたいと考え、テーマとした。

桃豚は特定の病原菌を持っていない SPF 豚（清浄豚）で豚肉特有の臭みがない。育成しているポークランドは、農場管理や薬品使

用量などの厳正な審査を受け認定された数少ない SPF 農場である。「モモちゃん」というキャラクターがおり、また、秋田のご当地アイドル「pramo」をイメージキャラクターにしたり、秋田ノーザンハピネッツの応援自販機を設置したりしている。そのほか、2010年フットアクションカップの優秀賞を受賞していたり、きりたんぽに桃豚を巻いた「ぶたんぽ」を移動販売車を用いて各種イベントで販売するなど、秋田に密着したブランディングがすでにかなり行われている。そこで、これを秋田県民以外の人にアピールする手段としてふるさと納税を考えた。調べたところ、すでに、小坂町のふるさと納税にはぶたんぽセット¥10,000、ハムソーセージセット¥10,000がある。そこで、新しいターゲットとして子どものいる家族を選び、アカシアはちみつのアイスクリームや、塩ソフトなどとのセットを作ってはどうか、と考えた。異なる企業の共同での商品開発は、現在あるものを生かした新しい価値になると考えている。

Ⅳ おわりに

(生徒から)

地域ブランディングの成功例を調べると、地域のよさに地元の人は気が付いておらず、他の地域から来たの人の気づきをスタート地点とし、地元の人も一体となって活動して初めてうまくいく、と気付いた。私たちは、かづの学やこれまでの小学校、中学校での調べ学習から、地元のことはもう十分知っているし、正直言ってもうやりたくないという気持ちもあった。しかし、その気持ちが地元の魅力に気づかない原因かもしれないと感じた。

少子高齢化や人口減など、鹿角にはいろいろな問題もあるが、進学や就職で地元を離れても、将来は帰ってきて地元で暮らしたいと考えている人も少なくはない。その時に、私たちのふるさとがどうなっているのか心配である。しかし、一度地元を離れて、帰ってきたときに、鹿角の良さを再確認し、もしかしたら新しい良さに気付くことができるのではないだろうか。

鹿角にあるさまざまな魅力を、ブランドとして連携させて高め、地域ブランディングをして成功させ、将来もこの鹿角が伝統を受け継ぎ発展していけるよう、いろいろなことを考えて、行動していかなければならないと思った。

(指導者から)

鹿角地域には、多くの地域資源がある。八幡平や十和田湖の雄大な自然。能『錦木』の原典をはじめとした多くの伝承・説話。毛馬内盆踊り、花輪ばやし、

大日堂舞楽などの歴史・文化。きりたんぽなどの食、豊富な温泉やストーンサークル、康楽館といった観光地。農産物を中心とした特産品。尾去沢や小坂鉦山、地熱発電といった産業。ここにはあげきれないほどの地域資源があるが、生徒はそれに関する調査や研究は小学校、中学校でも行っている。また、本校の『かづの学』も3年目となり、主要なテーマは出尽くした感がある。調査・研究は、高校でやるからには、小・中学校にない専門性や高度な考察などが結果に求められる。それを成し遂げることはできているか、また、発表ははたして生徒主導で行うことができているか、私たち自身が厳しい目で検証する必要があるだろう。

これからの鹿角地域や『かづの学』に求められるのは、この豊富な地域資源とその調査・研究の結果をどう活用していくか、というアウトプットのアイデアとそのデザインではないだろうか、という発想から、この講座を開設した。地域資源は、生徒にとっては身近な、あって当たり前のものであり、その価値に気付くには他地区から来た人間の意見に耳を傾けるか、もしくは自分が一度鹿角を離れてみるしかないだろう。だが、あえて『かづの学』のテーマとして取り上げることで、この豊富な地域資源が眠っている状態を新たなビジネスチャンスとしてデザインしていける人材を育成できないか、という願いを込めて1年間やってきたわけだが、指導者の力量不足もあり、目標は達成できなかったように思う。ただ、本講座の発表は、生徒の力のみによる成果である。いろいろな御意見を頂いたが、生徒は自分たちの身近な視点から彼らなりに真剣に考え、発表することができ、その点に関しては非常によくやってくれたと思うし、これを自信にしてほしいと願っている。

花輪ばやしはユネスコ無形文化遺産に登録されたが、鹿角にはもう一つのユネスコ無形文化遺産、大日堂舞楽もある。何れも後継者不足が言われて久しいが、本校生徒は比較的地元就職を希望する割合が高く、その点からはまだチャンスがあるといえるだろう。そしてもちろん、その他多くの地域資源がまだ眠っているなか、桃豚は、一企業のブランディングとしては成功しているといえる。そこから学んだことをこの鹿角という地域全体に生かすには、どう応用すればいいか、考えることはまだまだできるのではないだろうか。

生徒たちに、ふるさとの価値を実感させ、将来にわたって住みたいまちを自ら作ろうと思わせることが、『かづの学』ならば可能である。少子高齢化による人口減、文化の継承の途絶を食い止める一助とすべく、これからも尽力していきたい。

代表者 3C 柴田 瑠 威
指導者 石 崎 諒

はじめに

地域ブランドとは、その地域に存在する自然、歴史・文化、食、観光地、特産品、産業などの地域資源の付加価値を高め、他の地域との差別化を図ることにより、情報発信力や競争力を高め、住民の自信と誇りだけでなく、旅行者や消費者などに共感、愛着、満足度をもたらすものである。

これまで、かづの学ではさまざまな視点から鹿角の素晴らしさ、つまり地域資源についての研究がおこなわれてきた。そこで、この鹿角の素晴らしさをブランドにまで高め(＝地域ブランディング)、地域おこしにつなげたい、というのが本講座の主旨である。

I テーマ設定の理由

日本国内の地域ブランディング成功事例を調べると、さまざまな地域が地域ブランディングによって活性化し、文化の継承や雇用創出などの社会問題の解決に寄与している。その地域にある自然や文化、人的財産などを見直し、時代に即した再発信をすることで、地域が活性化され、若者の定住や他地区からの移住、観光客の呼び込みなどの新たな価値を生み出していく。鹿角に必要なのはその発信する力であると考え、下記の3つを取り上げ、再発信する手立てを考えてみた。

① かづの牛

～地元かづのに愛されるヘルシー牛肉～

②鹿角の食 ～男女別おいしいもの MAP～

③大湯温泉 ～大湯温泉マスコットキャラ作成～

II 実施計画

- 1 オリエンテーション
- 2 地域ブランディング成功事例の研究
- 3 鹿角市の産業ブランドアップ施策について
(鹿角市どこさデモ出前講座)
- 4 鹿角におけるブランディングを考える
- 5 発表準備
- 6 全体発表

III 調査・研究内容

① かづの牛

～地元かづのに愛されるヘルシー牛肉～

鹿角では、約 260 年前から尾去沢鉱山の鉱石を運ぶため牛が飼育されていた。かづの牛は、それを第二次世界大戦後に肉用牛としたもので、年々飼育数が減っており、希少価値の高い牛である。霜降り肉で有名な黒毛和牛と違い、脂肪分が少ない赤身の日本短角種(南部牛と外来種のショートホーン種との掛け合わせ)で、低カロリー、高タンパク、鉄分、ミネラルが豊富など、ダイエットにも効果的な栄養満点の牛肉である。また、さまざまな料理にも合うという特徴もある。

このかづの牛をもっとアピールするため、外国人向けの商品を考えてみた。理由は、日本人には脂肪が多く柔らかい霜降り肉がうけるが、欧米では逆に脂肪が少ない赤身肉が人気で、肉本来の味がしっかりしているほうが好まれるからである。そこで提案したいのが、『かづの牛ギフトセット』である。かづの牛を用い、欧米の人が食べなれているであろうビーフシチューやビーフハンバーグのレトルト食品を開発する。そして、さまざまな地域のイベントに出店し、アピールする機会を増やすことを考えた。また、パッケージには和紙を採用し、デザインも和風にするなど、日本の食品であることをアピールするものにする。これは、世界では日本食がヘルシーなイメージであること、ユネスコ世界無形文化遺産に登録されていることから知名度があると考えられるのが理由である。今年は、鹿角の祭である花輪ばやしもユネスコ世界無形文化遺産に登録された。このことを誇りに思い、自信を持ってアピールしていきたいと考えている。

② 鹿角の食 ～男女別おいしいもの MAP～

鹿角には美味しいものがたくさんあるが、知名度が低いため、年間の観光客数も約174万人と目標値である235万人を大きく下回っている現状にある。(鹿角市観光産業確立計画 ～稼げ

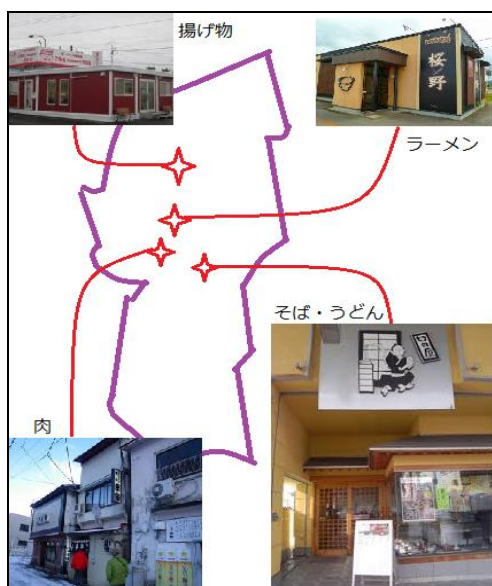
る観光を目指して ～H28 3月より）

観光客数が目標値に達していない一因として、鹿角市のどこに何があるのかということが県内外の方々に認知されていないことにあるのではないかと考えた。そこで、美味しいものMAPを作って秋田県内外の方々にアピールすることを考えた。地図は、地元の人はもちろん、他地域の人も訴えかけるいいツールである。

MAP 作成の工夫として、男性向けと女性向けの2パターンを作成することとした。たとえば、男性向けなら量が多く、スタミナが付きそうな物を中心に構成する。女性向けならヘルシーさやおしゃれ感をアピールするなど、ターゲットに合わせた MAP にする。今回は、参考として男性用のMAPを作成した(図1参照)。

これを、人の出入りが多い場所で無料配布する。手に取ってもらう工夫としては、MAP で取り上げた店舗の割引券を付けるほか、思わず手にとるようなデザインの工夫、意外性、紙を和紙にする、などを考えてみた。コスト面で難しい点は考えられるが、より多くの人に知ってもらうにはこれまでにない工夫が必要だと思う。

＜図1＞ 男性用 鹿角MAP



③ 大湯温泉 ～大湯温泉マスコットキャラクター～

私たちの地元でもある大湯温泉だが、あまり知られていないと感じている。そこで、大湯の魅力をより多くの人に知ってもらおうと考えた。

具体的には、大湯の魅力を象徴するご当地キャラを制作することとした(図2参照)。

大湯といえば、温度の高い温泉のほか、こけしや大湯太太鼓などがある。この中からこけしと温泉を選び、キャラクターを考えてみた。そして、

このキャラクターの名前を、一般公募にする。公募にすることによって、広くキャラクターの絵柄を知らせることができ、同時に大湯温泉の宣伝にもなると考えた。

＜図2＞ 大湯温泉のマスコットキャラクター案



Ⅳ おわりに

地域ブランディングの成功例を調べると、地域のよさに地元の人は気が付いておらず、他の地域から来た人の気づきをスタート地点とし、地元の人も一体となって活動して初めてうまくいく、と気付いた。私たちは、かづの学やこれまでの小学校、中学校での調べ学習から、地元のことはもう十分知っているし、正直言ってもうやりたくない気持ちもあった。しかし、その気持ちが地元の魅力に気づかない原因かもしれないと感じた。

少子高齢化や人口減など、鹿角にはいろいろな問題もあるが、進学や就職で地元を離れても、将来は帰ってきて地元で暮らしたいと考えている人も少なくはない。その時に、私たちのふるさがどうなっているのか心配である。しかし、一度地元を離れて、帰ってきたときに、鹿角の良さを再確認し、もしかしたら新しい良さに気付くことができるのではないだろうか。

鹿角にあるさまざまな魅力を、ブランドとして連携させて高め、地域ブランディングをして成功させ、将来もこの鹿角が伝統を受け継ぎ発展していけるよう、いろいろなことを考えて、行動していかなければならないと思った。

代表者 2C 田 畑 海 斗
指導者 木 藤 大 嗣

はじめに

鹿角市は「スキーと駅伝のまち」で有名な市でスポーツによるまちづくりの推進を掲げ、スポーツ振興に力を入れ、取り組んでいる。駅伝に関しては50年を超える歴史があり、浅利純子杯争奪鹿角駅伝大会や十和田八幡平駅伝競走全国大会などが有名である。

冬季スポーツでは、多くの全国大会を開催しており、スキー競技は冬季国民体育大会が過去5回も開催されている。また、生涯を通して、いつでも気軽にスポーツに親しみ、楽しめる環境づくりと生涯スポーツの継続にも力を入れており、様々な事業に取り組んでいる。

I テーマ設定の理由

近年、少子高齢化、人口減少や生活様式の変化によって鹿角市を取り巻く社会環境等が変化していると感じる。また、鹿角市ではスポーツ離れが進んでおり、運動不足等の生活習慣病も心配される。

自分自身の健康のため、生涯スポーツの推進やスポーツでの地域活性化を目指し、様々な推進事業に取り組んでいる鹿角市のスポーツ振興について考えていく。

II 実施計画

- 1 オリエンテーション
- 2 鹿角市のスポーツに関する協議会
- 3 出前講座
- 4 駅伝イベントへの参加
- 5 発表に向けての準備
- 6 発表会

III 調査・研究・実施内容

1. オリエンテーション

2. 鹿角市のスポーツに関する協議会

鹿角市のスポーツについて、知っていること、疑問に思っていることなどを挙げ、グループ協議をした。また、調査・研究内容として各大会でスタッフとして参加をすることが決定した。

3. 出前講座

6月21日(火)、鹿角市教育委員会スポーツ振興課の田原さんを招き、鹿角市スポーツ振興に関する講話をしていただいた。50分という短い時間ではあったがとても内容の濃い時間となった。スキーと駅伝のまちづくり事業は知っていたが、講話を聴いて、初めて知ることも多かった。

- まちづくり事業では、スキーと駅伝の全国規模大会を開催するほか、スキー人口の拡大、競技力向上を図っている。
- 「スキーと駅伝のまち鹿角」だが、野球やサッカー競技にも力を入れ始めている。
- 29年度からは様々なスポーツ少年団を設立予定で、今年度から活動している団体も増えている。スキー以外ではサッカーや卓球、柔道、剣道スポーツ少年団が活動している。



4. 駅伝イベントへの参加(実体験)

企画、運営に関して実際にスタッフとして携わった。仕事内容は、必要な物品移動（テーブル、椅子、給水等の準備、片付け）、選手と車の誘導を行った。

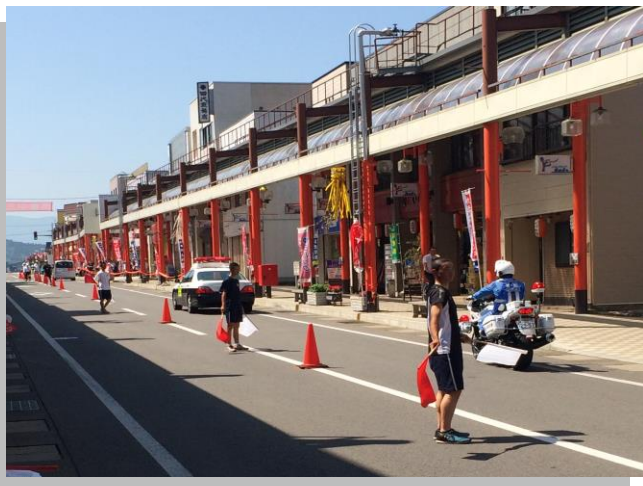
7月30日(土)

第10回浅利純子杯争奪鹿角駅伝大会



8月7日(日)

第69回十和田八幡平駅伝競走全国大会



参加しての感想

- 選手以上に裏方として支えている方の変身が分かった。
- 裏方の仕事を体験したことで改めて試合に出場できるありがたさが分かった。
- 私たちがボランティア、補助員として参加してもまだ人手が足りないことが分かった。
- 周囲の人の支え、協力があってこそ大会が無事開催できていることが分かった。

- 想像以上にスタッフの人数が多く、市民が大会を盛り上げるために一丸となっていることが同じ鹿角市民として嬉しかった。



5. 発表会に向けて

6. 発表会

Ⅳ おわりに

鹿角市のスポーツ振興に関して実体験を通して調査・研究してきたが、企画や運営などの裏方の仕事があるからこそ選手たちは各大会で力を十分に発揮できるのではないかと感じた。

また、スタッフとして参加した生徒からは大会運営から「人の暖かさ」というものを感じたという言葉もあり、改めて鹿角市全体が「スキーと駅伝のまち」として地域活性化に力を入れていることが分かった。

スポーツ推進事業の一部にしか触れることができなかったが、これからも鹿角市がスポーツで今以上に活性化することに期待したい。

そのためには我々のような若い力が必要になってくると思う。生まれ育った鹿角市のため、様々な事業に積極的に参加したい。



代表者 3 B 柳 沢 実 穂
指導者 加 賀 誠 幸

I はじめに

鹿角市は、現在、3つのスキー場があり、以前には旧大湯スキー場も含め4つのスキー場が営業されていたことがある。国民体育大会や全国高校スキー大会等の全国規模のスキー大会も数多く開催するなど、県内でも有数のスキーマッカである。

また、国立公園十和田八幡平間を駆け抜ける十和田八幡平駅伝競走全国大会は、現在69回を数え、全国の実業団チームや大学チームが数多く参加する伝統ある大会がある。更に地域住民や県内外の子どもたちが出場する浅利純子杯争奪鹿角駅伝、八幡平地区駅伝、花輪町廻駅伝大会など各地域にも伝統的な大会があり、地域と駅伝との繋がりも深い。

II テーマ設定の理由

鹿角市とスポーツとの繋がりを考えていくとスキーと駅伝は外すことのできない分野である。市としても「スキーと駅伝のまち鹿角」を掲げ、スキー大会や駅伝大会の誘致及び運営などをはじめ、様々な事業を企画し、展開している。

そこで、「スキーと駅伝によるまちづくり」を進めているねらいや具体的にどのような事業等が行われているのかを関係者から聞いたり、実際にイベントへ参加したりするなど体験を通じながら調査し、スキーや駅伝を通じたまちづくり、地域振興について考えていく。

II 実施計画

- 1 オリエンテーション
- 2 施設等の視察及び調査
- 3 市内関係者からの講話
- 4 スキーや駅伝に係る調査と実体験
- 5 発表にむけて
- 6 発表会

III 調査・研究内容

1 市内関係者から

(1) 鹿角市スポーツ振興課から

鹿角市のスポーツ振興に係る様々な政策の中に「スキーと駅伝のまちづくり事業」がある。全国規模のスキーや駅伝大会の開催、合宿誘致の他、利用券クーポンの発行、共通シーズン券の購入支援、選手強化事業など、競技人口の拡大や競技力向上はもちろん、スポーツ交流人口の拡大、生涯スポーツ推進など地域の活性化をねらいとして様々な取り組みを行っている。



(2) スポーツ施設運営から

- ① スキーや駅伝(陸上競技)に係る PR 活動等について
- ② 運営に伴う地域貢献、やりがいについて
- ③ 安全面について
- ④ 大会の運営やそれに係る経費、スタッフ(役員、ボランティア)数について



事業の成果「スキーと駅伝のまちづくり事業」

○競技力の向上

⇒全国大会での優勝や上位入賞、国際大会に出場するなど活躍する選手を輩出

○スキーと駅伝

⇒鹿角との繋がり(イメージ)が定着化、認知度のアップ

○経済効果

⇒全国規模のスキー大会の場合は、約2億円程度

○交流人口増

⇒鹿角の認知度アップ、経済効果等

○市民ボランティアの活躍

⇒継続的な大会の開催(誘致)が可能、共生や生きがいに繋がっている



ゴール後の給水(浅利純子杯争奪駅伝)

(2) 選手として

大会等のイベントを運営するには、経費、人材、地域理解など様々な課題があり、それらをクリアする必要があることが分かった。選手として今まで以上に運営側の大変さや有り難さを理解しながら参加するようになった。



サマーノルディックスキーIN鹿角

2 スキー場調査 (HP等から)

八幡平スキー場 水晶山スキー場

花輪スキー場 旧大湯スキー場

3 イベントへの参加

(1) スタッフとして



選手や車両の交通誘導(十八駅伝)

IV おわりに

鹿角市は、スポーツを通じたまちづくりを市全体で取り組んでおり、それらが繋がりを持って展開され地域の活性化に大きく貢献していることが分かった。財政面や人材面の課題はあるものの、今後の鹿角市の地域振興を考えると引き続き継続していったほうがいいと考える。実際、イベント等へ参加してみたところ、選手の頑張りに感動したことはもちろん、運営するスタッフやサポートする人たち、その他の関係者たちが様々に関わってひとつのイベントを成功させていることも分かった。私たち高校生も地域の住民としてもっと積極的に関わる必要があり、それがより地域の活性化にも繋がるのではないだろうか。

代表者 3C 大村 一輝

指導者 佐藤 裕也

はじめに

自然というものは、古来からずっと私たちの生活を取り巻き、切っても切り離せない関係にある。それらの自然は長い年月をかけて生成されたものや、中には先人達が手を加えたものもある。そして、人間を含むあらゆる生命体はそこで共存し、生を営んでいる。

私たちの住む鹿角市は豊かで壮大な自然を持っており、観光名所になっているところも少なくない。歴史も古く、大いなる魅力を秘めている。これらの自然を保持し、後世まで残すことは現代を生きる私たちの大きな使命である。

I テーマ設定の理由

近年「日本ジオパーク」認定を目指して、日本各地で地域団体の活動が盛んである。

秋田県内では現在、「八峰白神」「男鹿半島・大潟」「鳥海山・飛島」「ゆざわ」の4カ所が日本ジオパークに認定されており、それらは観光や町おこしなどの一助となっている。しかし鹿角の自然もこの4カ所に劣らず壮大かつ美景であり、「日本ジオパーク」として認定されるには十分であるはずだと考える。

では、鹿角の自然にはどのようなものがあり、どのような特徴があるのか。そしてそれらはどのような場面にどのような形で活かすことができるのか。本グループでは、普段から自分の生活圏内にある鹿角の自然にもう一度目をやり鹿角の自然を再見することで、鹿角市への郷土愛を深めるとともに、自然そのものへの造詣を深めるべく、1年間研究を行った。

II 実施計画

1 オリエンテーション

2 「日本ジオパーク」について

- i) 「日本ジオパーク」とは何か？
- ii) 「日本ジオパーク」にはどのようなものがあるか？
- iii) 「日本ジオパーク」に認定されるには？

3 鹿角の自然について

- i) 鹿角の自然にはどのようなものがあるか？

ii) 鹿角の自然をどのように活かすか？

iii) 鹿角が「日本ジオパーク」に認定されるには？

4 まとめ

III 調査・研究内容

(1) 「日本ジオパーク」について

初回の「かづの学」で、生徒に「日本ジオパーク」を知っているか尋ねたところ、ほとんどの生徒が知らないと答えた。また、知っていると答えた生徒も、名前は聞いたことはあるが具体的にどのようなものかは知らないということだった。そこでまずは、「日本ジオパーク」について、書物やインターネットを使い調べることにした。

ジオパークとは『地球・大地（ジオ：Geo）』と『公園（パーク：Park）』とを組み合わせた言葉で、「大地の公園」を意味し、地球（ジオ）を学び、丸ごと楽しむことができる場所」を指す。現在およそ40もの地域が「日本ジオパーク」認定を受けており、観光や町おこしなどで活用されている。

日本では「箱根」「伊豆半島」「南アルプス」などが既にジオパークに認定されている。既に認定を受けているこれらの自然を比較し、どのような特徴があるのかを考察した。考察の結果、ジオパーク認定を受けている自然環境は地形や成り立ち、歴史などに何らかの特徴があり、また人々との生活に密接に関わりがあるということが考えられた。

そこで今度は、鹿角に目を向け、鹿角の自然を「日本ジオパーク」に認定されるにはどうしたらよいかを多角的に考えてみることにした。

(2) 鹿角の自然について

「日本ジオパーク」の概要を理解した上で、私たちが住んでいる鹿角市の自然はどのようにしたら「日本ジオパーク」認定を受けられるか、そしてどのような形で活用できるかを考察した。

考察するにあたって、4つのグループに別れ、各グループで1つの場所・自然を決めて研究することにした。

グループ分けは下表の通りである。

大湯環状列石	3 C	昆 裕次 奈良 潤人 桃木 隼介 高嶋 優河
米代川	3 B	竹田 天斗 安保 祥太
	3 C	安保 裕太 石井 貫太 畠山 新 小林 大地
湯瀬溪谷	3 B	渋谷 卓句 古家 拓朗 奈良 彩斗
八幡平	3 B	菊池 竜太郎 栗山 大輝
	3 C	大村 一輝

研究内容は、「地形の成り立ち」「地名の由来」「地形の特徴」「植物系・生態系の特徴」である。グループごとに文献やインターネットを使ったり、現地に行って実際に観察したりして、研究を進めた。研究を踏まえ、これらの自然を教育や観光などの分野で活かすことはできないかを考察した。概要は以下の通りである。

「大湯環状列石」は国指定の史跡であり、歴史も古く、他に類を見ない伝統的な遺跡である。観光名所としても有名で、海外から訪れる観光客も多い。

「米代川」は長さおよそ140kmを誇る一級河川である。流域には日本三大美林である秋田杉が生い茂り、珍しい昆虫も多く発見されている。米の研ぎ汁で河が白くなったことから「米代川」の名前をとったという説があるなど、古来から人との関わりが深い。

「湯瀬溪谷」は新秋田三十景に認定された溪谷で、唐傘松や姫子松、岩地蔵などがある景勝地である。美しい紅葉で有名で、10月～11月になると、多くの観光客で賑わう。

「八幡平」はいくつかの火山から生成される山群である。トレッキングなどの観光で人気があるほか、幾許かの沼が点在しているという点も特徴的である。

以上の研究から、鹿角の自然もジオパークに認定される要素を内包していることがわかった。研究対象となった4つの地域は地質的・考古学的・文化的・生態学的な価値を持っており、ジオパークに認定されるために必要な地球（ジオ）の活動が活発であることがわかった。

そしてこれらの4つの自然環境を、どのように活用したら「日本ジオパーク」に認定されるか、考察した。考察を重ねる中で、もっと自然環境に人が関わり、教育や文化のジャンルなどで活かしていくべきだという意見が出た。せっつかく鹿角には歴史の古い美景がたくさんあるのだから、大いに活用すべきだというのが結論である。どのように活かすかまではまだ考察が及んでいないが、例えば「大湯環状列石」は現在小学校の社会科の授業などの学習に活かされている。「湯瀬溪谷」は観光客も多い。鹿角市としての魅力はたいへん大きいため、教育や観光、文化などあらゆる方面で鹿角市をPRしていくことが必要だということがわかった。

IV おわりに

改めて鹿角の自然に目を向けることで、それらには唯一無二の特徴があり、様々な分野で大いに役立てることができることがわかった。はじめは「日本ジオパーク」の存在すら知らなかったが、ふるさと学習を通じて自然を保護し尊重する気持ちが生徒の心の中に萌芽したことだろう。

先述のとおり、この壮大な自然を後世まで残していくことは我々の大きな使命である。生徒たちはこれから社会に出ていくこととなり、中には鹿角を離れる生徒もいる。複雑化する昨今の社会へ参入することに鑑み、生きていく中でふと自然に目を向け、自然へ敬意をはらうことができる人間になることを願ってやまない。



代表者 3C 中条 いづみ

指導者 飯塚 俊介

はじめに

グループ構成は3年生6名、2年生1名、1年生10名の17名。様々な統計を活用して、鹿角の現状やこれからを考察することを目的に活動した。

Ⅰ テーマ設定の理由

「データ」というのは辞書によると、計算をするための基になる数の集まりという意味で、そのデータから集団の傾向や性質などを数量的に明らかにすること、またその結果得られた数値を「統計」というそうだ。

教科書等でしばしば引用される主な統計には、次のようなものがある。

- ・国勢調査
5年ごとに日本全国と地域別の人口・世帯とその内訳を調べる。
- ・工業統計調査
毎年、日本全国と地域別の工業の従業者数、出荷額を調べる。
- ・商業統計
5年で2回調査。日本全国と地域別の商業の従業者数、販売額などを調べる。
- ・農林業センサス
5年ごとに日本全国と地域別の農家などの就業状態、農業生産、販売などの状況を調べる。

このほかにも、テレビや新聞などで目にするものに、消費者物価指数・労働力調査・家計調査などがあり、これらは社会や経済の実態を捉える情報として活用されている。上にあげた統計は、総務省統計局「日本統計年鑑」で調べることができ、私たちが親しみやすいように「なるほど統計学園」や「なるほど統計学園高等部」などのサイトも作られている。

多くの機関や企業、個人に活用されることで、私たちが豊かで暮らしやすい社会ができていると言われていますが、その統計を私たちはどの程度活用できるか学んでみたいという気持ちから、このテーマを設定した。

Ⅱ 実施計画

1. 統計グラフコンクール作品を閲覧
各地で行われている「統計グラフコンクール」の入賞作品から、テーマや統計の活用の仕方を学ぶ。
2. テーマ設定と調査
それぞれが興味をもったテーマを設定し、インターネット等を活用して資料収集を行う。
3. グループごとの発表とまとめ
グループごとにまとめたことを発表し、全体のまとめを考える。



「秋田県統計グラフコンクール」

(秋田県企画振興部調査統計課)

Ⅲ 実践内容

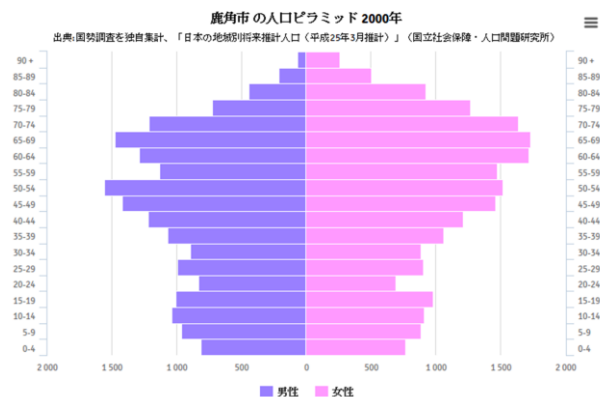
国の統計調査の中で、最も基本となる調査として「国勢調査」があります。日本の人口と世帯について最も信頼できる詳しい統計で、西暦の末尾が0と5の年の10月1日を期して行われるものです。この調査により、国民の暮らしや実態などの国の状態が客観的な数字で示され、調査対象となる人は必ず答える義務も生じます。国や行政の運営を公平に行う基準を与えるための調査にもなっています。

調査結果は総務省統計局のサイトをはじめ、様々な場所で閲覧ができ、私たちが住んでいる鹿角市についての調査結は鹿角市のホームページ等でみることができます。

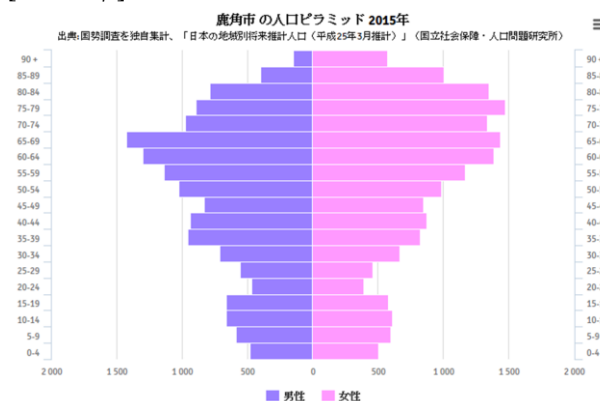
ここからは各グループの資料です。

●鹿角市の人口ピラミッド変化について (相川・青山・高田・湯瀬)

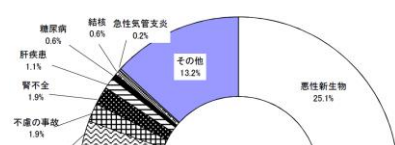
[2000 年]



[2015 年]

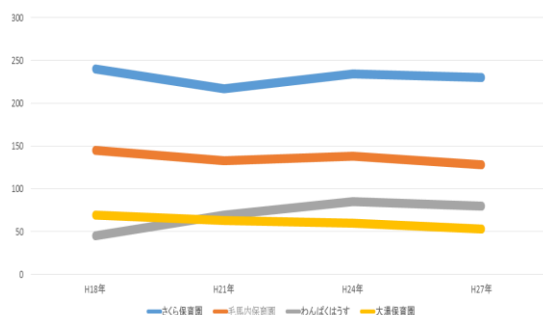


●鹿角市の主要死因調べ (大森・湯瀬)



秋田県の自殺率は過去 17 年連続で日本ワースト 1 位だったことも。鹿角市は全死因の 3.0%が自殺。(H25) 日本全体では 2.1%であることに比べると高い。

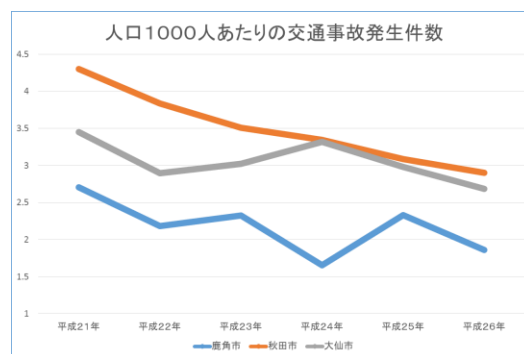
●保育園、母子生活支援施設入所人員の推移からみる鹿角市の人口 (佐藤・吉原・湯沢)



	さくら 保育園	毛馬内 保育園	わんぱく はうす	大湯 保育園
H18				
H21				
H24				
H27				

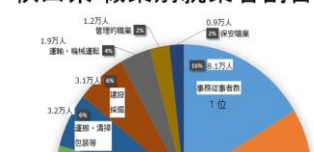
H18→H27 で保育園の入所者数が減少している。鹿角市の人口の減少が原因。一方で「さくら保育園」と「わんぱくはうす」は減少幅小。地域ごとに見ると花輪地区の人口は増えている。

●事故の少ない街、鹿角 (関・中条)



●職業別就業者割合 (赤坂・加賀・村木)

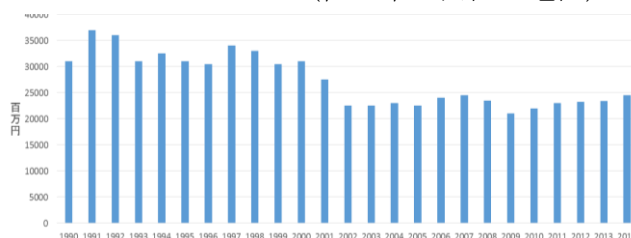
秋田県 職業別就業者割合



生産工程者：全国第3位⇔秋田県第2位
農林漁業者：全国第8位⇔秋田県第6位
販売に携わる人の割合：全国第4位⇔秋田県第5位
専門的・技術的職業者：全国第2位⇔秋田県第4位

●鹿角市の製造品出荷額の動向

(佐々木・曲田・亀田)



Ⅳ 評価 (まとめと今後の課題)

鹿角をテーマに調べ、その統計から読み取れることや予想できることを考えた。予想やその裏付けとなる資料を調べることを通して、統計やデータを正しく的確に分析し、情報として活用するためには、自身の知識を増やすことも大切だと感じた。

【資源・エネルギー】 15 鹿角地域新エネルギービジョンを覗いてみる

代表者 3A 亀田 涼太

指導者 渡邊 一郎

はじめに

今回かづの学で取り上げたテーマ『新エネルギービジョン』については、もう既に鹿角市が未来型の街づくり策の一つとして5年も前から実施している事業で、将来的に身近で起こりうる地方経済や地域コミュニティの問題にも関連することがあるのではと思い、改めて『新エネルギー』と呼ばれているものについて調べてみながら、鹿角市が取り組んでいる事業の方向性や現況について、少しでも知るきっかけになればという視点から、調べ学習を通し触れてみる事とした。

I テーマ設定の理由

普段私達はあまり自分達の住んでいる地域環境や自身の家庭における経済状況について意識することなく暮らしているが、実際どれだけ地方行政が私たちの生活について支援企画を立て、暮らしやすい街づくりを考えているかについて実感できる一つとして、環境問題とエネルギー問題があげられる。現状としては親の保護のもと、これらをあまり意識すること無く平凡な日常生活を送れている。そんな思いをきっかけにして私達の生活と密接な関わりを持つ事柄の一つとして、かづの学において地域行政が取り組んでいる事業の中から、環境に配慮した循環型エネルギー導入への取り組みについて、考えてみる契機となればということで、少しだけ調べたり知る機会にしたいということで、『鹿角地域新エネルギービジョン』について取り上げた。

II 実施計画

1 オリエンテーション

- (1) 学習テーマの確認と役割分担
- (2) 学習の方向性の確認

2 班編成 & 活動計画（班別）

3 調査 ・ 資料収集

4 班ごとのまとめ

5 発表準備（発表資料作成と原稿作成）

III 実施内容

1 オリエンテーション ……

学習テーマと方向性の確認

今回はただ単に『新エネルギー』を知るだけではなく、自分たちが住んでいる地域行政がこの『新エネルギー』を積極的に導入しようとしている現状も同時に知ることによって、これから自分たちが住んでいる地域が、どんなサービスによってどんな変化をしていくのかも想像できる一つのきっかけになればよいという思いから、テーマを設定し調べながらエネルギーについて考えられればとの思いでテーマを提示した。生徒たちも『新エネルギー』という呼び方は知らなくても、風力発電や地熱発電といった地元に根ざしてきた電力エネルギー発生の為の手段については、小中学校時に見聞きしているようで知っている。しかしながら実際にエコ活動を推進する取り組みに鹿角市が積極的に参画している事実は全くと言っていい程知られていなかった。

そこで学習の方向性として、鹿角市が取り組んでいる事業を調べることで『新エネルギー』をどんな形で取り入れ、どんな状況を事業の理想形として捉えているのかを探ってみるグループと『新エネルギー』といわれているものにはどのようなものがあり、それぞれの特徴についてどのようなものなのかを調べるグループに分け、この両面から鹿角市の『新エネルギービジョン』について学習してみることにした。

2 班編成と活動計画の立案

まず全体を五分割し、三年生のグループを中心に鹿角市が取り組んでいる『鹿角地域新エネルギービジョン』事業について調べてみることにした。残りの一二年生ではグループを四つに分け、『新エネルギー』といわれているものについての概要について調べることとし班編成を行った。

初めは各班ともインターネットなどを中心に情報の収集を図り、ある程度資料が揃った段階

で情報を整理することとして進めた。最後に自分たちが調べた結果として、『新エネルギー』がどんなかたちで自分達の身近なところで活躍しているのかをまとめながら鹿角市が取り組んでいる事業と重ねてみるという進め方をした。

3 調査・資料収集

(1) 鹿角市が取り組んでいる事業から

鹿角市では、『鹿角市地域新エネルギービジョン』として向こう 10 年という期間を限定し、鹿角の地域特性を利用した新エネルギー(循環型エネルギー)を市民の意見を反映させていく形で実現させようという事業企画を平成 23 年度に発足させ実施してきた。

現在地球温暖化防止や石油燃料系によるエネルギー利用の限界が言われ、これに変わる代替エネルギーの模索導入が全世界的規模で拡大している。しかしながらこの『再生利用可能エネルギー』の導入に当たっては、さまざまな要因や環境条件などが揃っていないと、対経費的な採算などが望めないことからなかなか一般的な分野にまで普及していないのが現状である。そんな中ここ鹿角の地域においては、自然環境的にも恵まれており、ある種の分野的『新エネルギー』を導入するには向いている地域である。昔から山の高低差と豊富な水量を生かして水力発電などで、三菱マテリアルという会社などが手がけている地域ということもあり、新事業の導入においては馴染みがないわけでは無い土壌である。しかしながらこの事業を行政主導だけで実現していこうとするのにはあまりにも大変なことから、鹿角市民生活環境改善として鹿角市全体を『新エネルギーパーク・かづの』として変化させていくことで、鹿角市全体の環境保全と市民への快適な暮らし、そして自然と観光資源を生かした街づくりが地域活性化に役立つという観点で少しずつ実施されてきている。

基本的な方向性としては、**①多くの市民の目に触れ体感することで環境保全への意識を高める。****②共働による新エネルギー普及の仕組みをつくる。****③新エネルギーの導入により地域の活性化をはかる。**これらの3本柱を軸に各種具体的な施策を展開しているようだ。一つの例として、市役所や小中学校などの公共施設において、「太陽光発電システム」や「地熱ヒートポンプ」などの新エネルギーを導入し活用している。

「新エネルギー講座」を年数回開催するなどして、将来共同参画していただける人材教育なども展開している。

現在鹿角市にはこうした動きと連動するかのよう『十和田ソーラー』という太陽光パネルを製造する工場なども建ち、雇用確保という面でも大きな変化が始まっている。また、実際に再生可能エネルギーの施設設備があちらこちらで見受けられるようになり、今後ますます事業としての重要性や需要が見込める様に変化が進んで行くことになるかと確信しています。

(2) 新エネルギーとは

①太陽光発電とは・・・

太陽光を黒色のソーラーパネルで受けこれを電気エネルギーに変換する装置を使った発電方法。

②風力発電・・・

金属製の大きな風車に風を受けて、羽を回転させこの動力を利用して発電機を回し電気を作る発電方法。(大湯田代平地区に設置)

③地熱発電・・・

温泉地域などの地下から吹き出す蒸気熱を利用してタービン発電機を回し発電する方法。(鹿角八幡平地域で活用)

④木製バイオマス・・・

木材の木屑などを特殊な薬品を使いながら圧縮加工し、固形の燃料として再利用する方法。(冬用ペレットストーブなどに用いられる)

などが代表的なものとしてあげられている。

Ⅳ まとめと今後について

研究(学習)する内容が深く、今まで6年間の事業成果や活動だけで見ても膨大な資料となり、どの部分について集中的に進めていったらよいのか絞り切れていなかった。今回の学習で地元鹿角市が取り組んでいる事業は、環境に配慮しつつも市民生活や地域全体をも豊かにしたいという想いのもと続けられている事が分かった。最後に鹿角市が先進的な取り組みを積極的に参画し、自分達以降の世代もよい街、暮らしてみたい街鹿角としてあり続けることをこの学習を通して実感できた。願わくば各家庭においてもこの新エネルギーシステムが普及し、個人宅も街全体も豊かで活気ある街作りに官民あげて取り組める地域であることと、今後この循環型エネルギーの恩恵が各家庭にも及ぶ進展を見込めるようになることを期待し見守り続けていきたいです。

代表者 3B 米 澤 翔
指導者 吉 成 徹

はじめに

鹿角地区は、鉱山で栄えた地域である。県内でも早くから電気が通ったこと、煙害がきっかけでニセアカシアが小坂町の観光資源になっていることなどは有名である。

金を除き、鉱山でとれるのは鉱石であり、金属ではない。金属を利用するには鉱石を金属にする操作が必要で製錬という。製錬には湿式製錬と乾式製錬がある。湿式製錬は水などに金属イオンを溶かしだして取り出す方法で、乾式製錬は液体を使わず高温で還元反応をおこなうものである。

I テーマ設定の理由

昨年度の研究で鹿角地区の鉱山と公害について調べ、二酸化硫黄を日光に曝して強い酸ができることを確認した。

今年度は、鉱山に関する研究の続編で、鉱石から金属をつくる操作である「製錬」をしてみたいと考えた。鉱石から金属をつくることは、通常、設備が大きくなることが多い。ここでは、学校の設備で行えるものに限って実際に操作観察をおこない、鹿角の繁栄につながった技術を確かめたい。

II 実施計画

1 製錬実験の調査

他の学校で実験した報告を調査

2 クジャク石を湿式製錬する

予備実験 鉄釘に銅を析出させる

実験 クジャク石から銅をつくる

3 クジャク石を乾式製錬する

実験 クジャク石を還元炎で焼く

実験考察 生成物の調査

4 酸化鉄(III)のテルミット反応

準備 危険性の評価

実験 テルミット反応

考察 生成物は何か

5 酸化銅(II)のテルミット反応

調査 銅のテルミット反応の危険性

実験 酸化銅(II)のテルミット反応

III 調査・研究内容

1 クジャク石の湿式製錬

概要 クジャク石を硫酸に溶かし、水溶液にする。鉄の釘を入れて銅を析出させた。

準備 クジャク石 (図1)、鉄製乳鉢、6 mol/L 硫酸、ビーカー、ピンセット



図1 クジャク石(malachite)

手順1 クジャク石を鉄製乳鉢で砕いて粉末状にした。ビーカーに移し、6 mol/L 硫酸を入れ溶解させた。

手順2 青色の液体に鉄釘を入れ、10分後にピンセットで取り出した。

結果と考察

クジャク石は緑色の濃淡の縞がはいった石である。手順1で、硫酸を入れると気体が発生した。クジャク石は緑色をした銅のさび錆と同じ組成であり、炭酸イオン CO_3^{2-} をふくむ。そのため、硫酸を加えると二酸化炭素 CO_2 が発生するためと考えられる。

手順2で、鉄釘は暗い銀色であるが液体に浸して取り出すと、表面は暗い赤色に変化していた。表面の物質は取り除かなくても電気を通した。銅ができたと考えられる。

2 クジャク石の乾式製錬

概要 クジャク石はそのまま炭火で加熱して銅ができるという記述があったので、試してみることにした。

準備 クジャク石、活性炭、磁性るつぼ、三脚、三角架、るつぼばさみ、プロパンガスバーナー、テスター

手順 クジャク石を塊のまま、るつぼに入れ活性炭で周囲を囲んでふたをして、バーナーで30分加熱した。15分放冷してから取り出した。

結果と考察 入れたクジャク石よりもやや小さくなった塊を取り出した。表面は黒色で、部分的に赤い色が付いていた。(図2)手で簡単に割れた塊もあった。テスターで電気抵抗を測定すると平均5k Ω であった。表面の色は金属ではなく、電気抵抗も大きなことから、金属はできていないと考えられる。るつぼの中は空気が通らないので酸素が反応した可能性は少ない。黒い物質は、炭酸イオンと水酸化物イオンが熱分解した炭素ではないかと考えられた。



図2 クジャク石の熱処理後

3 テルミット反応

概要 金属アルミニウムは強力な還元剤で、酸素と化合している鉄原子から酸素原子を引き離し、酸化アルミニウム Al_2O_3 に変化する。この反応は強い光と大きな熱を発生する。たくさんの動画や情報があり、工夫して安全に実験する方法を考えた。磁石に付かない酸化鉄(III)粉末とアルミニウム粉末から、磁石に付く生成物ができることを重視し、入手性から酸化鉄(III)を使用した。酸化銅(II)のテルミット反応は、非常に激しいことが予想されたので、経験と安全重視で、金属回収は主目的とはしなかった。

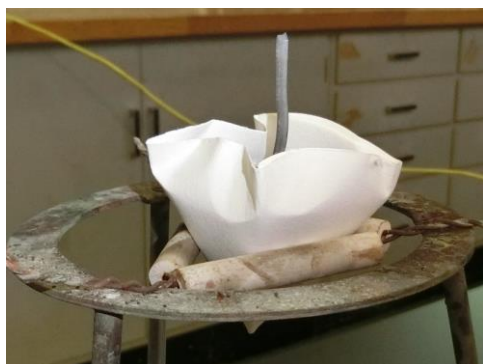


図3 テルミット反応 装置

準備 アルミニウム粉末、酸化鉄(III)粉末、酸化銅(II)粉末、マグネシウムリボン、硝酸カリウム、ろ紙、三角架、三脚、キャンプ用ガストーチ

操作 アルミニウム粉末3g、酸化鉄8gをビーカー内で薬さじを利用し混合した。これをろ紙を折った容器に入れ、(図3)マグネシウムリボンを導火線にして点火した。着火しなかった場合は硝酸カリウムを0.5gほどマグネシウム周囲にまぶして再度点火した。

結果と考察 酸化鉄のテルミット反応は次のようになった。マグネシウムリボンが非常に明るい光を出して燃えてゆき、ろ紙の内部に届いた瞬間に明るい光がろ紙の反応容器からひかりだした。ろ紙が燃えると、容器は下に落下し、ビーカー内の水の中で、明るい光を発し続けた。ビーカーは試薬が接した部分に穴があき、中の水は流れ出した。すべての水が流れ出す前に発光は終了した。反応終了後にろ紙の燃え残りの中から、穴があいた中空の球形の物体を回収した。この物体は磁石に付いた。(図4)



図4 テルミット反応生成物

この反応には、空気中の酸素は関係しない。水は冷却のはたらきをしたが、反応熱が非常に大きいため、反応が継続したものと考えられた。この反応で生じた物体は鉄であると考えられる。

IV おわりに

鹿角地域が鉱業で栄えたのは、近代的採鉱、選鉱、製錬によるものである。今回試したのは、近代的製錬ではなく、鉱石から金属を取り出す方法の確認のための実験である。金属は、現代の私たちの生活になくてはならないものであり、たぶん今後もそうだと思う。金属の製錬が文明を進めてきたことを改めて感じる事ができた。

代表者 3C 大 森 里葉奈
指導者 加 賀 屋 徹

はじめに

近年、平均気温の上昇、豪雨、豪雪、地震、火山活動等、様々な自然災害や自然環境の変化が起こっている。

それらは、メディアを通して世界各地で起きていることを知るだけでなく、東日本大震災や平成25年秋田・岩手豪雨のように、私たちの地域でも起こっている。

その後も、大雨や地震、高温などが起こっている。さらに先月、気象庁は、十和田を平成28年12月1日から、24時間体制で観測する「常時観測火山」に追加すると発表をした。

このことから、私たちの身近で様々な自然災害や自然環境の変化は、これからも起こる可能性は大いに考えられる。

I テーマ設定の理由

前文の現状を踏まえて、事前に知識として災害の可能性と防災を知っていることで、対策をした災害に関しては、その被害を最小限に抑えることはできないかと考えた。

このような考えのもとで、十和田高等学校周辺の地域では、どのような自然災害が発生する可能性があるのか、起きたのか、防災の方法にはどのようなことがあるのか等を調査することとした。

II 実施計画

- 1・オリエンテーション
- 2・十和田高等学校周辺の地域理解
- 3・防災に関わる知識の理解
- 4・十和田高等学校周辺の生徒視点のハザードマップ作成
- 5・研究のまとめ

III 調査・研究内容

1・オリエンテーション

実施計画を理解し、今後の見通しを立てた。

2・十和田高等学校周辺の地域理解

十和田高等学校周辺の地域は、どのような地理になっているのかを、フィールドワークを通して、理解しようとした。その際、その時点での生徒の防災知識の視点で、危険ではないかと思われる箇所を、デジタルカメラに保存した。



図1 十和田高等学校北側にある丘

大雨や地震の際により崩れ、麓の家屋を壊す可能性が考えられる。



図2 十和田高等学校に隣接する国道282号線
自動車の交通量が多いため、交通事故の可能性が
ある。

3・防災に関わる知識の理解

- ・各グループで、防災と自然災害について調べた。



図3 各グループが調べている様子

2011年以降、鹿角市花輪では、震度1以上の地震は年間10回超に増えていることが記録されていた。

- ・実際に災害が発生した時に、「誰に助けられたか？」というデータ(出典元 日本火災学会「1995年兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」)から、ほぼ、自力、家族、友人などであることを学び、防災の分類は、「自助・共助・公助」があることを学んだ。

- ・鹿角市ホームページ内「鹿角市防災マップ」を見て、鹿角市が発信している十和田高等学校境界の危険箇所を確認した。下の図は、鹿角市防災マップの前に作成されていた「鹿角市災害ハザードマップ」です。



図4 鹿角市災害ハザードマップ

- ・様々な都道府県等の Web 上にアップされている「東京防災」「防災クイズの問題例：地震・津波・広島県」等を、参考にしたり、解答することで、災害時の適切な対応を確認理解した。

4・研究のまとめ

これから、今回獲得した防災の知識と、十和田高等学校境界の地理を関連させて、生徒の視点で危険箇所をまとめたい。

Ⅳ おわりに

近年、様々な自然災害や自然環境の変化が起こる可能性が身近にあり、十和田高等学校周辺の地域では、どのような自然災害が発生する可能性があるのか、起きたのか、防災の方法にはどのようなことがあるのか等を調査し、まとめようとした。

フィールドワークを通して、毛馬内地区の土地勘が養われたこと。インターネットを活用し、鹿角市が発信している危険箇所や、過去の災害、防災の方法を知ることができ、防災に関する知識の獲得があった。という2点に関して、一定の成果を得ることができた。

しかし、防災の知識を高めることに多くの時間を費やした結果、生徒の視点からのハザードマップ作成まで、まとめ上げることができなかったことが残念である。

今回の調査を通して、ふるさと毛馬内地区、防災の方法に関しての理解が高まったため、今後何らかの自然災害が発生した場合、今回の経験を活用して、自分の身を守るとともに、進んで、家族、地域の人たちの命を助ける一助に活用してもらいたい。

参考文献

図4 鹿角市防災マップ

<http://www.city.kazuno.akita.jp/saigai/image/61672download.pdf>

脳と体を育てるために、よい睡眠をしよう！

代表者 3A 成 田 直 哉

指導者 茂 内 芳 樹

はじめに

将来、看護師を志望しており、高校時代でも取り組みることはないかと思い、鹿角の看護を研究しようと考えた。

I テーマ設定の理由

8月に秋田看護福祉大学で行われた高大連携授業に参加し、基礎看護学、小児看護学、成人看護学、在宅看護論を学んだ。その中でも高校生にとって、睡眠が心身に与える影響が大きいと思い、テーマに選んだ。

II 実施計画

- 1 オリエンテーション
- 2 OB講話
- 3 仕事研究
- 4 学問研究
- 5 基礎看護学（皮膚）
- 6 基礎看護学（睡眠）
- 7 小児看護学
- 8 成人看護学
- 9 在宅ケア論
- 10 基礎看護学（脈）
- 11～13 発表会準備



III 調査・研究内容

①睡眠クイズ（答えは次ページ下）

- | | |
|------|--------------------------------|
| Q 1 | 理想的な睡眠時間は7時間である。 |
| Q 2 | 休日は日頃の睡眠不足を解消するため、寝坊した方がよい。 |
| Q 3 | 睡眠時間を減らしていけば、そのうち短い睡眠時間に体が慣れる。 |
| Q 4 | 朝型人間か夜型人間かは、生まれつき決まっている。 |
| Q 5 | 一般的に、男性よりも女性の方が熟睡できている。 |
| Q 6 | 寝返りが多いのは、熟睡できていない証拠である。 |
| Q 7 | 夢をたくさん見るのは、眠りが浅い証拠である。 |
| Q 8 | 暗記をするなら、眠る直前に勉強するのが効率的である。 |
| Q 9 | 夕食に唐辛子やキムチなど、辛いものを食べるとよく眠れる。 |
| Q 10 | 羊を数えると快眠できるというのは、本当である。 |

②眠くなる2つの理由

- ・恒常性維持機構（疲れたから眠る）
 - ・体内時計機構（夜になると眠くなる）
- 睡眠物質のメラトニンは光に影響され、夜間の強い光はメラトニンを抑制する。

③睡眠の役割

- ・成長ホルモン
- ・記憶や訓練の固定

睡眠は疲れた体や脳の回復をする。体の疲れは休息やストレッチ、栄養などで回復可能であるが、疲れた脳の回復は睡眠が唯一の方法である。

④ 10代と睡眠の現状

・平均睡眠時間	日本	7時間00分
	アメリカ	7時間10分
・睡眠時間が6時間以下の子どもの割合	スイス	9時間00分
	中1	11%
・成績との関係	高1	38%
	高2	40%
	高3	44%
	就寝時間に対する知能指数	
	8時まで	93
	8時以降 9時まで	104
	9時以降 10時まで	103
	10時以降 11時まで	101
	11時以降 12時まで	101
	12時以降	95

成績アップの鍵は睡眠にある。睡眠を削る勉強は、脳の働きから考えると効率の良い方法ではない。毎晩一定の勉強から就寝し、早起きをして昨晚の復習をするべきである。

⑤その他 高大連携授業以外で実施したこと

・オリエンテーション
テーマごとのオリエンテーションでは、自己紹介として、本講座を選んだ理由と、期待することを話した。

・OB講話
今年の4月から日本赤十字看護秋田看護大学に進学した倍賞さんから講話をしていただいた。看護師になろうとしたきっかけ、高看ではなく大学を志望した理由。将来どんな看護師になりたいか。さらに、大学生活や、高校時代について聞くことができた。

・仕事研究
看護師、保健師、理学療法士などの職業について調べた。仕事の内容、働き方と生活、ふさわしい人、将来展望についてまとめた。

・学問研究
志望校の学校案内を取り寄せ、学べる内容、卒業後の進路、入試制度、キャンパスライフについて調べた。オープンキャンパス参加の準備として日程、行き方、用意するもの、模擬授業の有無について確認した。

Ⅳ おわりに

かつの学の時間に、高大連携授業で学んだ内容を、高大連携授業に参加していない1、2年生に説明してみた。実際に説明してみると、分かったつもりになっていることが多かったり、専門用語を簡単に説明できなかったりした。看護師として、皆にわかるように説明できることもコミュニケーション能力の1つであると思うので、今後、さらに勉強したいと思った。



クイズの答えと解説・・・・・・・・・・・・・・
Q1 (×) Q2 (×) Q3 (×) Q4 (○)

睡眠ホルモンをメラトニンといい、朝日が目から入り、体内時計に刺激が伝わる。朝の光を目にしてからから14～16時間前後で眠くなるようにできている。

Q5 (○) Q6 (×) Q7 (×) Q8 (○)

睡眠はノンレム睡眠とレム睡眠に分類される。ノンレム睡眠とは、脳の睡眠、疲労回復、体修復をする。レム睡眠とは脳を育て、夢、記憶の整理と固定に係わる。

Q9 (○) Q10 (×)

体温を上げることによって、脳から体温を下げる命令が出て、寝つきが良くなる。ただし、熱い風呂に入浴するとアドレナリン分泌により眠りにくくなる。

はじめに

私たちの班では、鹿角の看護というテーマのもとに、地域の医療を支える仕事にはどのようなものがあるかということや、医療に携わる上で大切なことが何かということについて、これまで調べてきました。これまでの活動では、医療に関わる職業について調べたり、個人個人が興味を持った学校について調べたりするほか、看護大学に進学した卒業生の講話聞くことや、高大連携授業を活用して秋田看護福祉大学の講義に参加することなどをしてきました。

今回は、高大連携授業で受けた秋田看護福祉大学の「脈について知ろう」という講義について取り上げたいと思います。

I テーマ設定の理由

今回は、看護師が日常的に行うバイタルサインというものに注目したいと思いました。その中で、講義でも取り上げられた「脈」というものを中心に、発表を行いたいと考え、このようなテーマを設定しました。

II 実施計画

- 1 オリエンテーション
- 2 OB講話
- 3 仕事研究
- 4 学問研究
- 5 基礎看護学（皮膚）
- 6 基礎看護学
- 7 小児看護学
- 8 成人看護学
- 9 在宅ケア論
- 10 基礎看護学（脈）
- 11～13 発表会準備

III 調査・研究内容

私たちは、夏休み中に行われた秋田看護福祉大学の高大連携授業に参加してきました。2日に渡って計4回の講義を受けました。

1日目は「睡眠について」「赤ちゃんについて」、2日目は「脈について知ろう」「訪問看護」という内容の講義でした。これらの講義を受講して、特に看護師としての実践的な技術について知ることができた「脈拍の測定」という内容が、特に印象に残りました。何かの検査機器を使用するわけでもなく、誰でもすぐに測定できる手軽さのほか、私たちの知らない様々な病気を知らず手がかりにもなるということが大きな収穫となりました。

バイタルサインとは、「人が生きている状態を示す徴候」のことであり、これは主に「体温、脈拍、呼吸、血圧」のことを指します。今回取り上げる脈拍は、測定が比較的容易であるにも関わらず、心身の状態をよく反映する基本的な情報として医療の現場では扱われています。

脈拍の基準値は表1のようになっており、そのリズムは規則的で乱れないこと（整脈）のほか、身体の左右で違いがないこととされています。

新生児	120～140回／分
乳児	120～130回／分
幼児	100～110回／分
学童	80～90回／分
成人	60～80回／分
高齢者	60～70回／分

表1 脈拍の基準値

この脈拍の変化は、日常の様々な要因によって影響を受けることが知られています。例えば、食事や入浴、運動ですが、これらの活動によって代謝が促され、脈拍は一時的に上昇します。上昇したあとは、時間と共に脈拍は抑えられ、やがて安定します。

このようなバイタルサインとしての脈拍の異常には、どのようなことがあるのかというと、次の表2のような5つが挙げられるそうです。それぞれの異常から分かることについても、簡単に紹介したいと思います。

①数の異常	頻脈、徐脈
②結滞	正常脈拍が1つ飛ぶ
③不整脈	本来のリズムから外れる
④脈の左右差	動脈硬化などによる動脈閉塞、血栓
⑤脈の性状	大脈、小脈、交互脈など

表2 脈拍の異常

①について、頻脈は脈拍が100回／分以上になる状態で、徐脈は60回／分以下になる状態をいいます。頻脈は、興奮や病的な不整脈などによって生じ、徐脈は代謝異常などによって生じます。④について、本来は左右でちがいが無いはずの脈拍に差が見られる場合、動脈の閉塞や血栓が疑われることになるそうです。⑤については様々で、大脈とは脈拍が大きく触れることで、高熱時や運動直後に見られるほかは、大動脈や甲状腺の病気の可能性があるそうです。小脈は脈拍が小さく触れることで、低血圧や大動脈などの病気が疑われるそうです。交互脈は大脈と小脈が交互に現れる状態をいいます。

次に、脈拍の測定について説明します。

脈拍として測定されるのは、動脈と呼ばれる血管の拍動です。人の血管には、動脈、静脈、毛細血管の3つがありますが、基本的に体の表面に多いのは静脈であるので、脈拍の測定に適した部分は限られています。次の図1は、脈拍の測定がしやすい部分を示した図です。

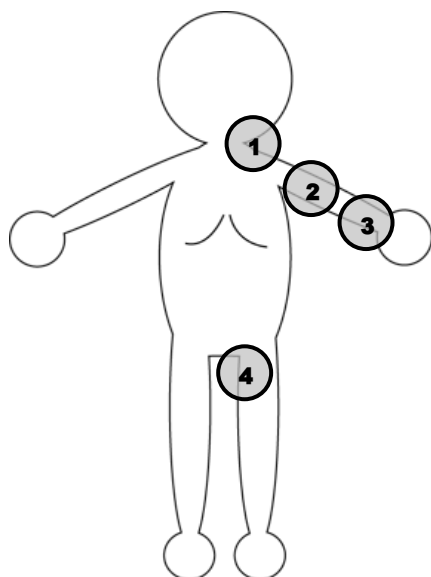


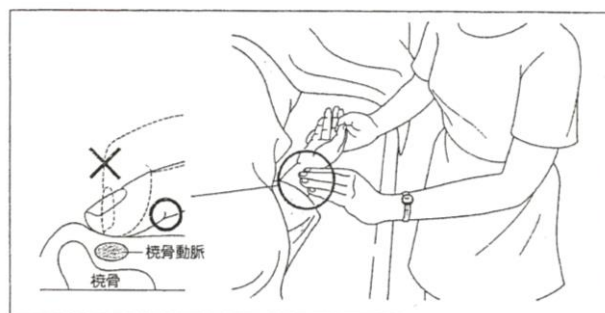
図1 脈拍の測定に適した部分

人の体で脈が触れやすい部分は、図1に示した①～④の部分です。①は頸動脈で、首筋のちょうど耳の下を押さえると脈を測ることができます。②は上腕動脈といって、二の腕を押さえるようにして測ります。

③は橈骨（とうこつ）動脈といって、いわゆる手首の動脈にあたります。④は大腿（だいたい）動脈といって、太ももの足のつけ根を押さえることで脈拍を測定することができます。

【脈拍の測定方法】

1. 測定する上肢をベッドやテーブルの上に置くか、片方の手で支え固定する。
2. 橈骨動脈に添って、第2・3・4指を並べ、指腹が血管の真上にくるように当てる。
3. 1分間測定する。
4. 脈拍数だけでなく、リズムや大きさ、緊張度なども観察する。



薄井垣子ほか著：系統看護学講座 専門2 基礎看護学2、p69、医学書院、2002。

【脈拍の測定】 ※試しに測定してみよう。

測定部位	脈拍数[回／分]	リズム
例) 橈骨動脈(左)	例) 60 回／分	例) 整

Ⅳ おわりに

鹿角の看護というテーマのもと、地域の医療を支える仕事や、医療に携わる上で大切なことが何かということについて調べてきました。高齢者や障害者にとっての生活を支える在宅看護や訪問看護のあり方について考えさせられると共に、地域のために将来自分ができることが何か探っていきたいと思いました。

今回取り上げた「脈拍」について知ることは、自分自身を知るための手がかりにもなると感じました。「医者（の）自脈効き目なし」というように、専門家であっても自分のことはやはり分からないものです。このバイタルサインを知る方法を覚えておくことで、自分自身に対しての理解も深めていきたいと感じました。

代表者 3A 安保 満利名

指導者 今川 浩子

はじめに

鹿角の食材と言え、りんごや北限の桃、鹿角牛などあげる人が多いが、実はブランド食材以外にも私たちは日常的に地元産の食材を使って調理し、食している。この研究では、それら地元産の食材の魅力を最大限に生かした郷土食を開発したい。

Ⅰ テーマ設定の理由

鹿角は食材の宝庫ではあるが、きりたんぼや北限の桃、りんごなど知名度が高い食材以外、生徒はあまり関心を持たず、認識も低い。四季を彩る郷土食を自分たちで考え、オリジナルの献立作成と調理を行い、PRしていくことをねらいとする。

Ⅱ 実施計画

5月17日 オリエンテーション、
班編成4グループ

- ・年間計画の説明
- ・高校生商品開発コンテストへの参加に向けての説明
- ・秋田を味わいたい！ 献立を立てるにあたって

5月31日

秋田の食材を使ったオリジナル献立の作成(被服室)

6月7日 秋田の食材を使った調理(試作品づくり)

6月21日、7月19日

高校生商品開発コンテストの献立作成

8月23日

高校生商品開発コンテストへの出品のための調理

9月27日 春夏秋冬の郷土食献立作成(1回目)

10月25日 手作り豆腐(大豆から作成)

11月22日 手作り豆腐(豆乳から作成)

11月29日 春夏秋冬の郷土食献立作成(2回目)

12月13日 テーブルコーディネート学習

12月16日 春夏秋冬における郷土食の調理

12月19日 発表準備、リハーサル

12月20日 発表本番

Ⅲ 調査・研究内容

1 班編制

最初に班編制をした。

2年生が4名、3年生が12名の計16名、学年のバランスを考え4班編制とし、リーダーも決めた。

2 秋田の食材発見

秋田を味わいたい！献立を立てるにあたってのレジメで、秋田の食材を紹介し、それを使ってオリジナルの献立を立てて、調理を行った。



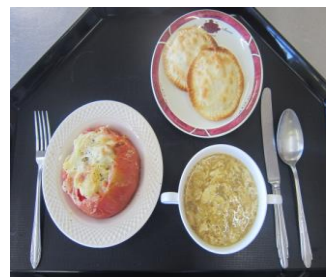
調理の様子
山菜の天ぷら
桃豚のミルフィーユ
カツとカツサンド

3 高校生商品開発コンテストへ出場するため、献立を作成し、調理を行った。

<献立3品>

洋風秋田めし

鹿角天井+α



秋田ランチプレート

3品とも高校生商品開発コンテストに出品した。

4① 豆腐作り1回目(大豆から作成)

豆腐づくりキッドを購入していただき、実際に豆腐をつくってみた。1回目は大豆から作成し、豆乳とおからに分けた。おからドーナツを作った後、豆

腐をつくろうと思ったが、固まらず豆腐はできなかった。そこで、やむなく豆乳から豆乳鍋を作った。



4②豆腐作り 2回目（豆乳から作成）

今回は、豆乳から豆腐を作ってみた。豆乳から作ったところ、凝固して豆腐ができた。絹ごしで、作りたては柔らかくすぐに崩れてしまうが、2日置いたところ、柔らかいながらも水分が減って料理に使うことができた。



5 テーブルコーディネートの実習

テーブルコーディネートをを行った。市販の教材を使ってテーブルコーディネートに挑戦した。調理をして盛りつける際に、料理を置く皿や配膳、カトラリーの選択、ランチョンマットの色に至るまで、考える必要があるため、シートを活用して、グループを行った。



6 郷土食の調理

いよいよ春夏秋冬ごとの御膳のレシピに従って、調理を行った。四季のタイトルは次の通り。

春の御膳～和を味わう
夏の御膳～夏バテ対策 ヘルシー料理
秋の御膳～彩りを楽しむ
冬の御膳～ヘルシー重視の冬の料理

2時間で調理、配膳を行った。食材を最大限に生かす調理と、タイトルをイメージした盛りつけや配膳の難しさは感じたが、チームで取り組む楽しさや研究の集大成を発表できる喜びを感じた。豆腐を使った料理を一品加えることにした。

（左上 春、右上 夏 左下 秋 右下 冬）



IV おわりに



今回の研究で、改めて鹿角の食材は豊富であること、地元産の特に旬の食材を使って調理することの大切さを学んだ。意識的に取り組むことで視野や可能性が広がり、鹿角市も求めている鹿角のオリジナル料理の開発につながったように思う。

これぞ！我が家の「かぶの料理」自慢コンテストに応募した「枝豆と八幡平ポークのあんかけ」が決勝大会に進んだことも、秋田市地域特産品アイデアコンテストに応募した「エダマメタルト モンブラン風」でも決勝に残り、最終審査に進んだことも、この研究の成果であると思う。

今後は調理技術を高めるだけでなく、創造性をさらに膨らませて開発していくことはもちろんのこと、コーディネート力も高めていきたいと考えている。

代表者 3A 高瀬 由梨佳

指導者 濱松 崇子

はじめに

I テーマ設定の理由

私たちは、秋田県鹿角地区の名産や自慢できるものなど、私たちの郷土について再認識し、音楽的な面からアピールしたいと考えた。得た知識や、その素晴らしさを他に発信したい。その1つの方法として「かづのPRソング」を制作しようと考えた。

曲を作るにあたっては、作詞で国語の能力やバランス感覚、作曲では持って生まれた音楽的感性や演奏能力も必要とする。また制作した曲を自分たちで歌うなど、表現力も養われると考え、このテーマを設定するに至った。

地元で活躍する生徒はもちろんのこと、県外で活躍していく生徒にも、鹿角や秋田県を誇りに思い歌い継がれる曲にしたい。

II 実施計画（全15h）

作曲研究 3h

作詞研究 3h

PRソング作詞作曲活動 4h

演奏練習 2h

発表会リハーサル 2h

III 実践内容

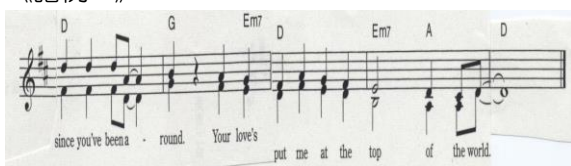
(1) 作曲研究 (3h)

① 「歌唱曲の諸要素について・替え歌」

既存の曲を用いて、替え歌で鹿角をPRする歌詞を考えて当てはめる。「Top of the world」のサビ後半部分に、鹿角をPRできる言葉を考えて歌ってみる。

《作品例A》さあ おいでよ Hey! かづの

《譜例A》



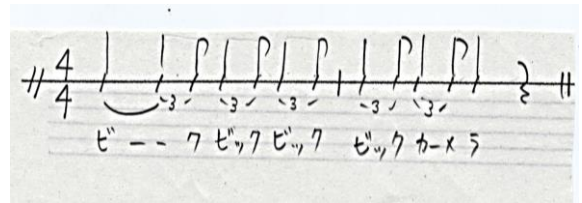
さあ おいでよ Hey! かづの..

② 「歌唱曲の諸要素について・言葉」

言葉とリズムやメロディーの関係について研究する。言葉の持つリズムとそれに音程や音楽的リズムがどのようにつけられているか、既存の曲を参考に思考を深める。

《例B》ビク ビク ビク ビクカメラ

《譜例B》



③ 「歌唱曲の諸要素について・速度」

既存曲を用いて曲の速さと曲の雰囲気の関係について研究した。それぞれを歌ってみて曲の雰囲気の変化、感情の違いを発表し合った。その結果、速度と曲の雰囲気や感情が密接に関わっており、このことを認識してこれからの作曲に生かしていく。

《例1》「糸」（作詞・作曲：中島みゆき）

指定速度「♩=72 くらい」で歌ってみる。

その後「♩=144」で歌ってみる。

《例2》「上を向いて歩こう」

(作詞：永六輔・作曲：中村八大)

指定速度「♩=132~144」で歌ってみる。

その後指定より遅い速度で歌ってみる。

(2) 作詞研究 (3h)

「かづの」からイメージする言葉を、単語や文章でそれぞれ思い思いに書き連ねる。それらを出し合って全体に統一感のある歌詞に作り上げていく。

① 「かづの」から連想する言葉を挙げていく。

毛馬内盆踊り、花輪ばやし、きりたんぼ、ホルモン、アカシア、桃豚、かづの牛、ストーンサークル、十和田湖、北限の桃、米代川、りんご、十八駅伝、鉾山、淡雪こまちなど。

② カルデラ湖として有名な十和田湖に着目し

た。湖の形成は 20 万年前に遡るという。湖には、流れ込む大きな川がないことから泥や栄養分が運び込まれず少ない。透明度が高く、美しい藍の水をたたえる。そのためか、「愛と神秘の湖＝十和田湖」とも言われる。この十和田湖のイメージを念頭に、そして十和田湖一帯から鹿角を中心に作詞を進める。

③ 歌詞は五七調を基本に作詞していく。

④ 1 番は鹿角の春や夏をイメージして、2 番は秋や冬をイメージして作る。

(3) 歌詞の完成から作曲へ (4 h)

① 作曲と平行して、歌詞を作り直していく。その方法として、言葉の順序を単語単位で変えてみる、歌詞を行単位で移動させてみる、観光パンフレットを見直してみ、イメージを膨らませる、等。

② その曲のメインである「サビ」から作曲を始めた。

③ 後に A メロ、B メロの作曲、コード進行の兼ね合いも含めて微調整をし、一度カラオケ音源を作成。歌いながら、言葉がうまくはまらない箇所や歌ってみて不自然な箇所を再度調整した。

④ 最後に、全体の雰囲気 considering してタイトルをつけた。

IV 評価 (まとめと今後の課題)

高校生の持っている感性は本当に素晴らしい。特に作曲においては、何の作曲の知識も無くともキラリと光るものを見せ、素敵に仕上がる。いわゆる音楽理論による作曲の法則に従う方法もあるが、そのことに縛られず、思うがまま自由に作ったことが功を奏した。高校生ならではの感覚が発揮されたと感じる。かつの PR ソング制作班の、この 14 名でしか成し得なかつたろう唯一無二の曲に仕上がったことが、何よりも嬉しい。

今回発表会の段階では、まだ曲としては荒削りで、世に送り出すには未完の作品ではあるが、メンバー 14 名のそれぞれの良さや才能が発揮され表現された渾身の 1 曲である。

欲を言えばこの曲作りには終わりはない。編曲や、演奏形態など、手を加えようと思えばいくらでもできる。そのことに一応の目処をつけて、今後は CD 録音ができる状態に仕上げ、鹿角の PR に役立てていきたい。

「僕らの街〜かづの」

作詞・作曲 十和田高校かづの学

PR ソング制作班

【 4/4 B^bmajor ♩=106 】

B^b F

青い空と 広がる大地

Gm E^b on G F

鹿角の 自然は 美しく

B^b F

輝く太陽 さわやかな風

Gm E^b E^b F B^b

幸せな瞬間 運んでくれる

Gm E^b F

鹿角の祭りで 心躍り

E^b Cm F F₇

夢と希望を 持たせてくれた

B^b F

愛を語ろう 十和田湖で

Gm E^b on G E^b F

未来 造ろう このふるさとで

B^b F

夏を駆け抜け 花輪ばやし

Gm E^b F B^b

伝統踊る 毛馬内と

緑の制服 その身にまとい

仲間と歩いた 銀杏 (いちよう) の並木

湖水まつりを 見ていた夜は

家族と楽しむ きりたんぼ鍋

そんな鹿角を 思い出して

さみしい夜も 笑顔になれる

愛を語ろう 十和田湖で

未来 造ろう このふるさとで

紅葉 (もみじ) ひろって 八幡平

雪山すべって 水晶山

愛を語ろう 十和田湖で

未来 造ろう このふるさとで

la la la la la...

公開研究発表会スケジュール（12月20日）

SHR		各教室（8:35～8:45）			
移動		第1体育館入場（8:45～8:55）			
打ち合わせ		講座別最終打ち合わせ（8:55～9:15）			
説明		日程について（9:15～9:20）			
開会式		校長、生徒会長あいさつ（9:20～9:30）			
発表	No.	テーマ	担当	開始時刻	備考
口頭発表	1	鹿角の伝説とむがしっこ	吉岡	9:30	展示あり
	2	鹿角の朝市①	長里	9:45	
	3	鹿角発ブランド農産物の地域展開（かづの牛）	岩谷	10:00	
	4	地域ブランディングを考える～花輪ばやし・桃豚～	菅原	10:15	
	5	地域ブランディングを考える～かづの牛・食文化・大湯温泉	石崎	10:40	
	6	「スキーと駅伝のまち鹿角」について①	木藤	10:55	
	7	鹿角の防災	加賀屋	11:10	
	8	春夏秋冬における鹿角の郷土食の開発	今川	11:25	
講評	口頭発表の講評 他（11:40～12:10）				
昼食12:10～12:50 ポスター発表自由閲覧13:00～13:20					
発表	No.	テーマ	担当	開始時刻	備考
実演	9	かづのPRソング制作	濱松	13:30	
ポスター発表	10	鹿角方言かるた	齊藤	以下の時刻に一斉開始します 13:45 14:00 14:15	ステージで実演あり
	11	地名からみる鹿角	畑山		
	12	鹿角の朝市②	佐々木		
	13	鹿角・毛馬内ふるさと情報をホームページで発信しよう①	土門		
	14	鹿角・毛馬内ふるさと情報をホームページで発信しよう②	小笠原		
	15	「スキーと駅伝のまち鹿角」について②	加賀		
	16	日本ジオパークから考察する鹿角	佐藤裕		
	17	統計資料からみる鹿角	飯塚		
	18	鹿角地域新エネルギービジョンを覗いてみる	渡邊		
	19	金属を製錬する	吉成		
	20	鹿角の看護 -脳と体を育てるために、よい睡眠をしよう！-	茂内		
	21	鹿角の看護 -脈について知ろう-	平		
講評	実演発表・ポスター発表の講評および全体講評（14:30～14:40）				
閉会式	生徒会長、校長あいさつ（15:00終了）				

公開研究発表会の様子(平成28年12月20日)



生徒のワークシートから

○自分の研究に関する自己評価(5段階評価にて実施)

アンケート項目	1A	1B	1C	2A	2B	2C	3A	3B	3C	全校
(1) 今回の研究テーマを選択して良かったか	4.38	4.27	4.17	3.74	4.07	4.04	4.31	4.29	4.25	4.17
(2) 研究内容は意義あるものだったか	4.38	4.30	4.13	3.81	3.96	4.07	4.38	4.24	4.28	4.17
(3) 主体的に取り組むことができたか	4.46	4.18	4.30	4.06	3.96	4.00	4.23	4.21	3.75	4.12
(4) 他者と協働しながら活動することができたか	4.21	4.36	4.40	4.00	4.18	4.25	4.42	4.44	4.09	4.26
(5) 深く学ぶことができたか	4.38	4.27	4.00	4.19	4.04	3.89	4.31	4.12	3.91	4.12
(6) 課題を見つけることができたか	4.08	3.97	4.10	3.77	3.68	3.71	4.08	4.06	3.66	3.90
(7) 今後さらに発展していく内容であったか	4.13	3.94	3.90	3.68	3.93	3.79	4.23	4.12	3.75	3.93

○公開研究発表会 生徒の感想

1 発表のしかたをみて気がついたこと

(1) 口頭発表・実演発表

- ・昨年度よりも発表者の声量が大きく聴きやすかったと感じた。
- ・話すとき、聴衆の目を見るようにしていると印象がよかった。今年度は、パワーポイントと話す速度が合わせられていた。
- ・画像のほかに動画や実演もあり、理解しやすかった。
- ・ただ話すのではなく、人を引きつけるための工夫がされている発表はよかった。

(2) ポスター発表

- ・動画や実物があってわかりやすかった。
- ・ポスターの文字や写真の大きさを、離れたところから見えるかどうかを意識して作る必要があると思った。
- ・資料が充実しているグループとそうではないグループの違いが、発表時間にあらわれていたと思った。

2 資料（プレゼン、ポスター、実演）をみて気が付いたこと

- ・文字を大量に掲載するのではなく、わかりやすい図や写真、グラフ、キーワードに絞っていると見やすかった。
- ・パワーポイントと同じ内容を話してもダメだと思った。
- ・手書きのポスターは、太いペンでないと見えなかった。

3 感想と発展（感想や新たに自分に芽生えた研究したいという内容など）

- ・昨年や一昨年より。どのグループの発表も良くなっていると思った。
- ・友だちと研究して、それを皆の前で発表できたのはすごく楽しかった。
- ・かづのPRソングは耳に残る曲調で、歌詞も素晴らしかった。CD化したほうがいいと思う。
- ・鹿角の人口問題について興味がある。卒業したら鹿角を離れるが、戻ってくることがあったら鹿角に貢献したい。
- ・鹿角の良さについては中学校から調べているが、鹿角の魅力はまだまだあるし、知らなかったことがたくさんあった。自分の暮らしているところがこんなにも良いところだということを、みんなに知って欲しいと思った。
- ・鹿角は食・自然・観光面で市内外に発信できることがたくさんあるので、誇りを持って生活していきたい。
- ・こういう機会を大切に、かづの学をこれからも続け鹿角の活性化に繋げてほしいと思う。
- ・将来、県外に就職して「鹿角ってどんなところなの？」と聞かれたときは、良いイメージを与えられるようになれればいいなと思った。
- ・3年目のかづの学。一番充実していた。
- ・3年間取り組んでみて、地元には誇りに思えるものがたくさんあるんだとわかった。今後、かづの学で知ったことなど、社会に出てから県外からの来訪客に伝えていけたらと思った。
- ・「鹿角には、何もない」そう思っていた自分だが、そうではなく「自分は知らないだけ」ということが改めてわかった。自分の生まれ育ったところなので、その地域くらいは詳しく知っておきたいと思った。

編集後記

平成26年度より開始したふるさと教育「かづの学」も3年目となりました。今年度は16講座を設定しました。新たに設置された講座の他に、前年度からの継続性のある講座もあり、どれも生徒と教員とで成果をまとめ、発表を行うことができました。1年間の活動の集大成として、このたび研究集録を作成いたしました。キャリア教育についての一資料として御活用いただければ幸いに存じます。

本校のふるさと教育事業に際し、御協力いただいた関係機関の皆様に改めて感謝申し上げます。

ふるさと教育実行委員会

武藤 正則	岩谷 宣行	渡邊 一郎	吉岡 藤美	吉成 徹
今川 浩子	土門 祐子	小笠原和寿	齊藤 恭子	濱松 崇子
茂内 芳樹	加賀 誠幸	飯塚 俊介		

平成28年度 ふるさと教育「かづの学」研究集録 第3号

平成29年3月1日 発行

編集者 秋田県立十和田高等学校 ふるさと教育実行委員会

発行者 秋田県立十和田高等学校 校長 石川 弘美

電 話 0186-35-2062

FAX 0186-35-2272
